

1: No.0 排土  
2・3: No.0～No.1 排土  
4～6: 2地点 SX  
7: 3地点 SX  
8: 3地点 SX 埋土表採

9～10: 2～3地点間②層  
11: 2～3地点間排土  
12: 4地点ピット  
13～17: 5地点 SX  
18: No.2SX (5地点 SX 続き)

19: 6地点 SX  
20: 2地点～No.2間排土

図 104 出土遺物実測図①

光鏡内(斜平造遺跡・月持山遺跡)の調査

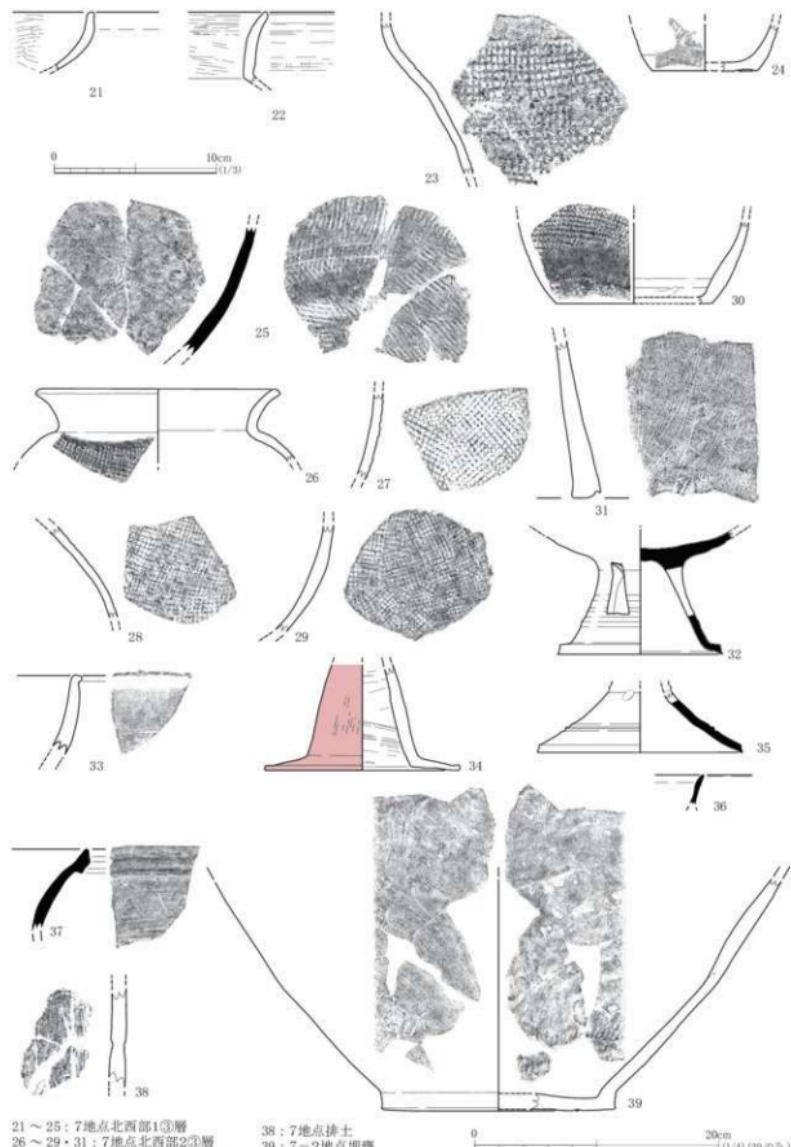
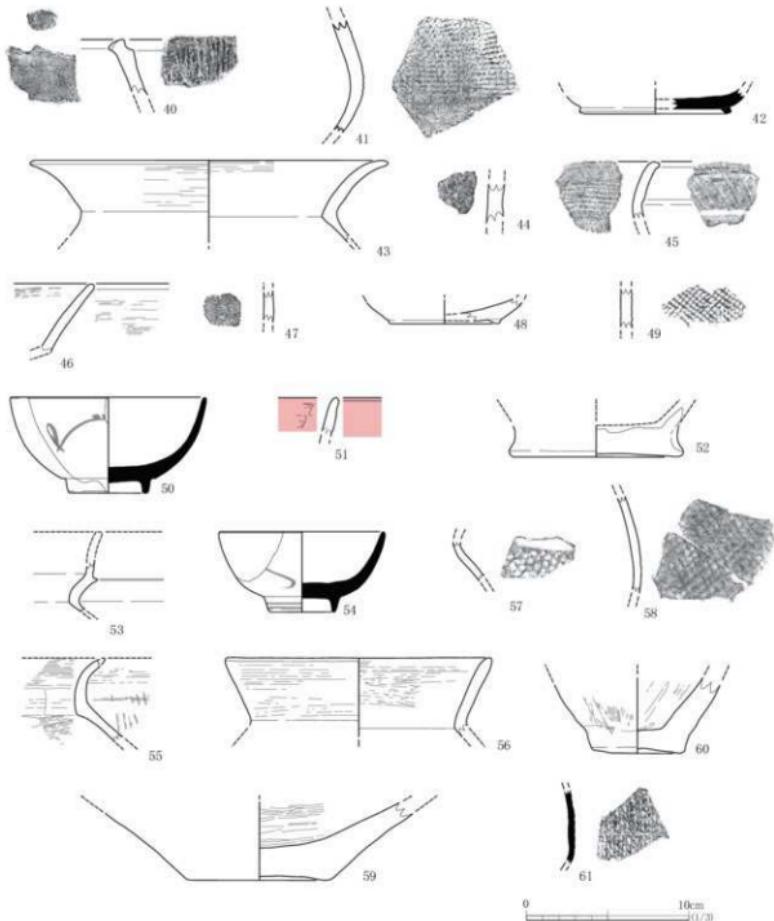


図 105 出土遺物実測図②



- 40～42：9地点③層  
 43：10 地点②・③層  
 44：10 地点②層  
 45：10 地点ビット  
 46：11 地点ビット  
 47：13 地点ビット  
 48：No.2-1～No.2-2間②層  
 49：14 地点～15 地点間②層  
 50：15 地点③層  
 51：15 地点④層

- 52：16 地点④～⑤層上面機械掘削時  
 53：16 地点④層か（業者表採）  
 54：17 地点暗褐色粗砂  
 55～58：18 地点④層  
 59：No.4～No.5間耕土表採  
 60：22 地点表採  
 61：23 地点③層か

図 106 出土遺物実測図③

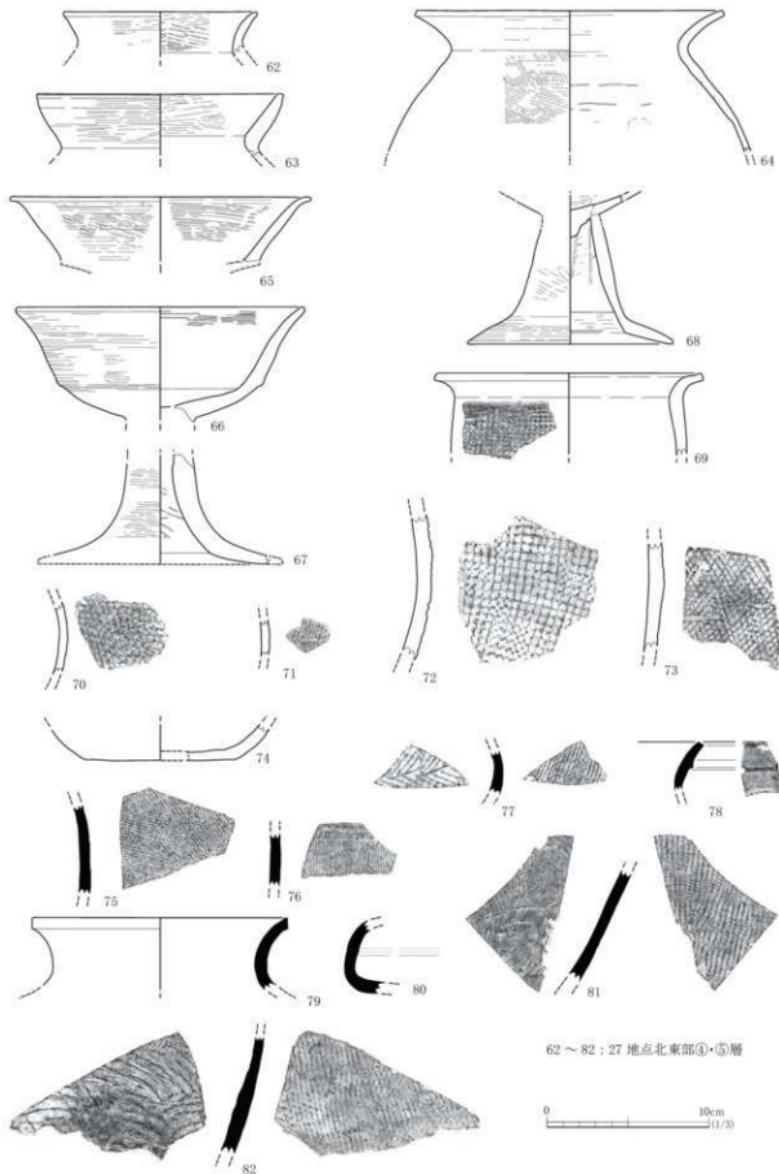
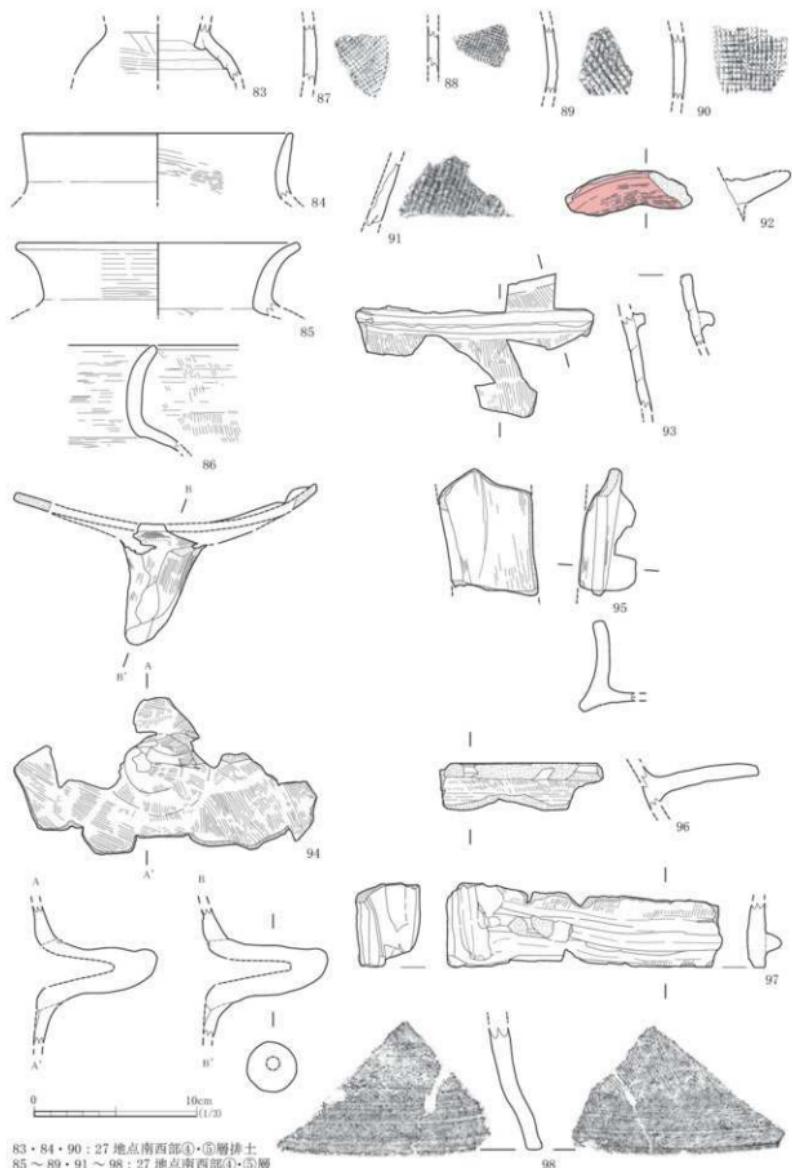
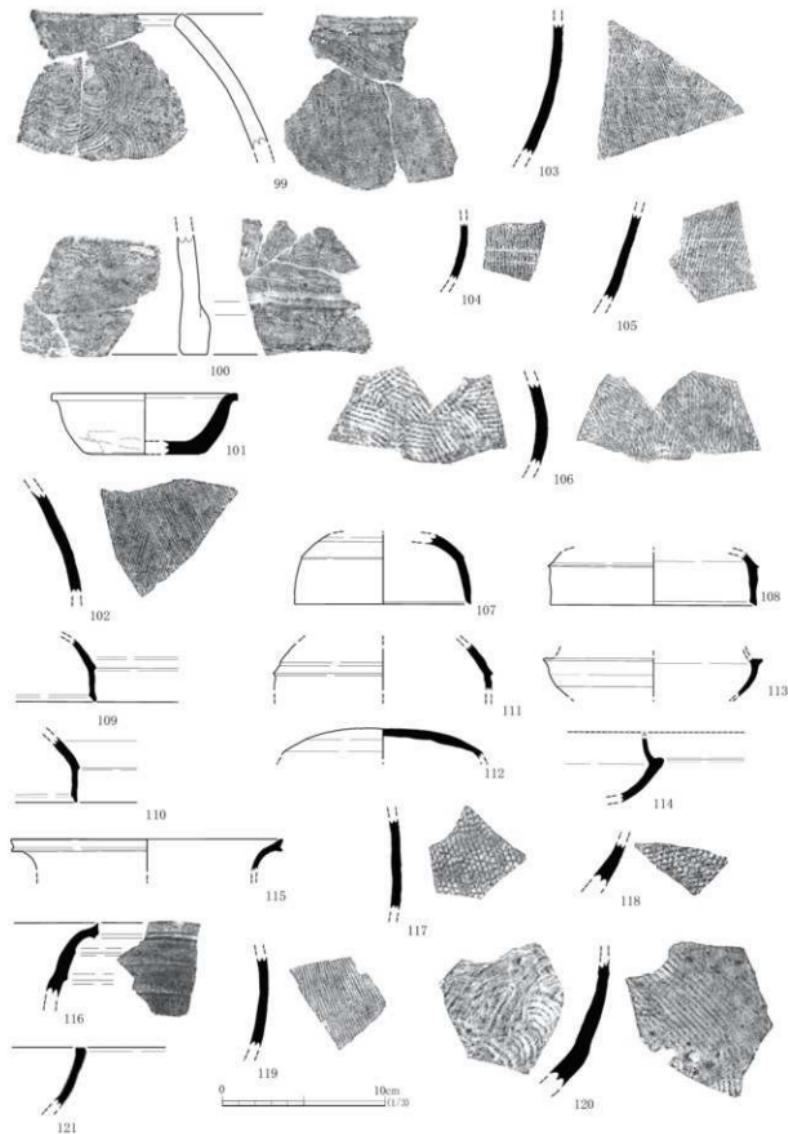


図 107 出土遺物実測図④



83・84・90: 27 地点南西部④・⑤層  
85～89・91～98: 27 地点南西部④・⑤層

図 108 出土遺物実測図⑤



99・100・103～107・110～112：27 地点南西部④・⑤層  
101・102・108・109・113～121：27 地点南西部④・⑤層  
排土

図 109 出土遺物実測図⑥

光圀内(御平山遺跡・月待山遺跡)の調査

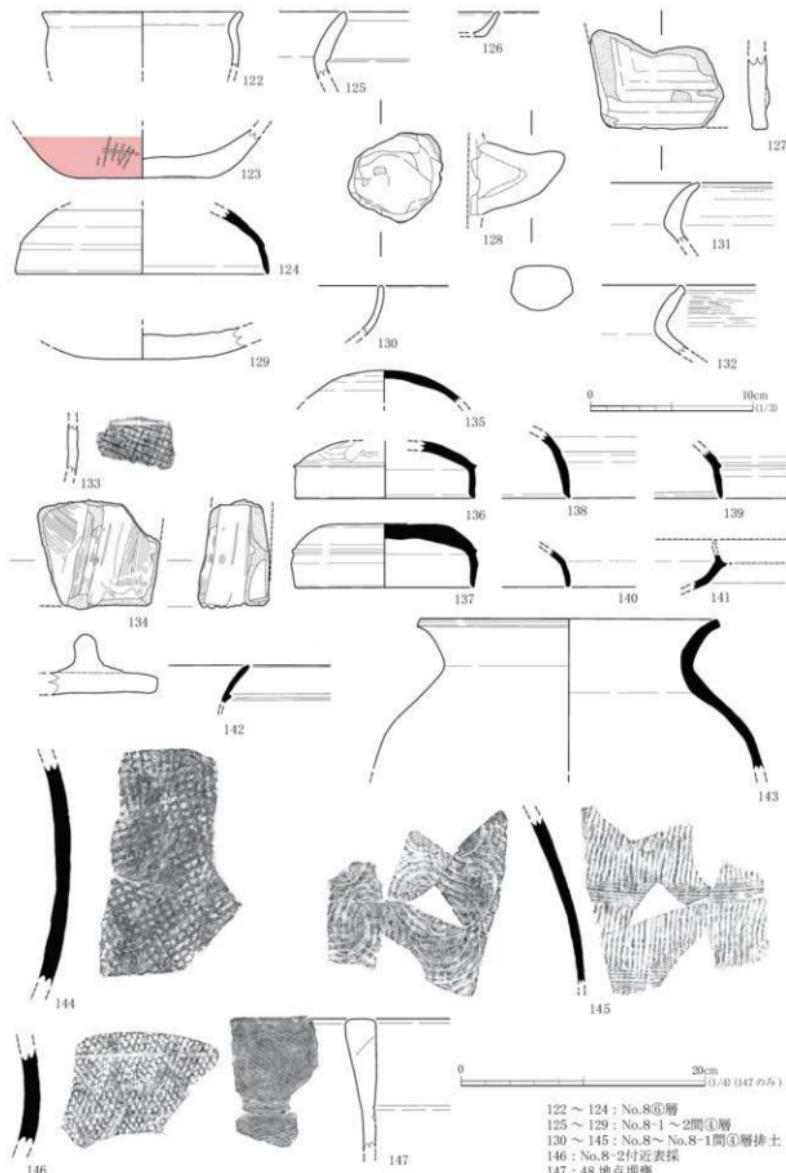


図 110 出土遺物実測図⑦

122～124: No.8⑤層  
125～129: No.8-1～2間④層  
130～145: No.8～No.8-1間④層  
146: No.8-2付近表土  
147: 48地点埋甃



写真 225 出土遺物①



写真 226 出土遺物②



写真 227 出土遺物③



写真 228 出土遺物④



写真 229 出土遺物⑤



写真 230 出土遺物⑥



写真 231 出土遺物⑦

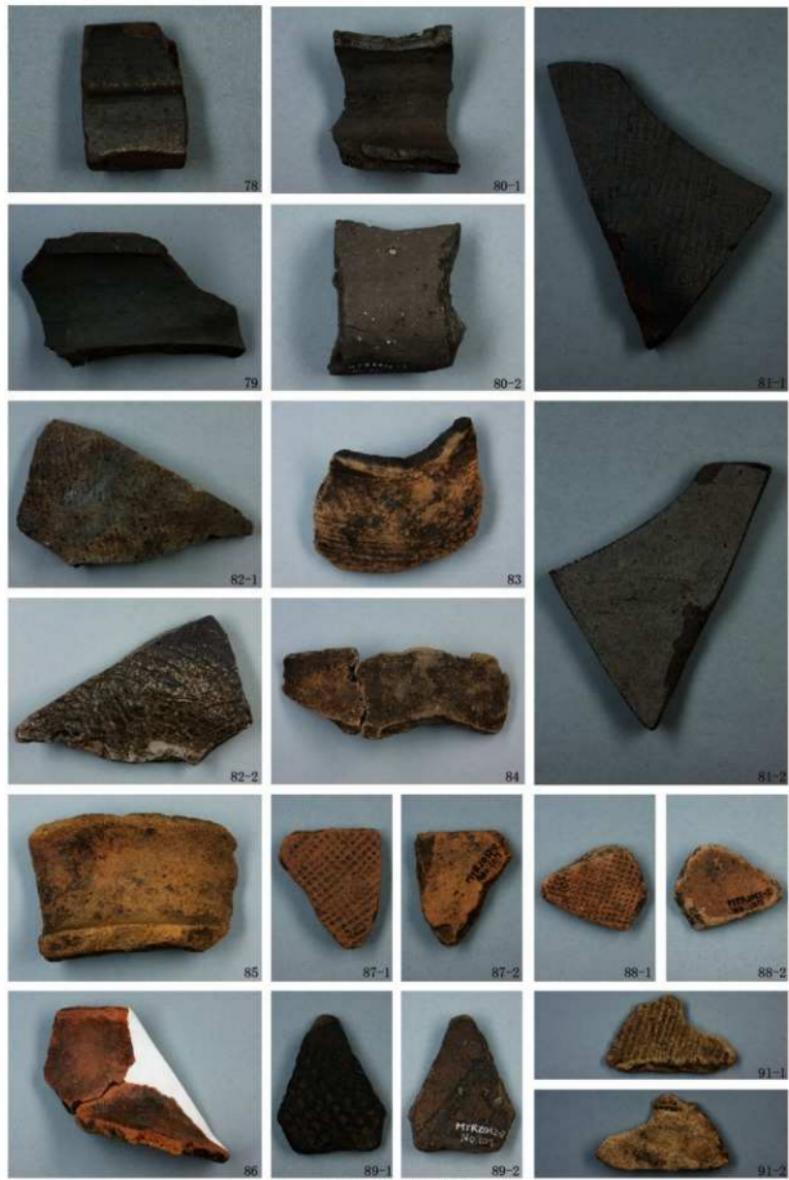


写真 232 出土遺物⑧

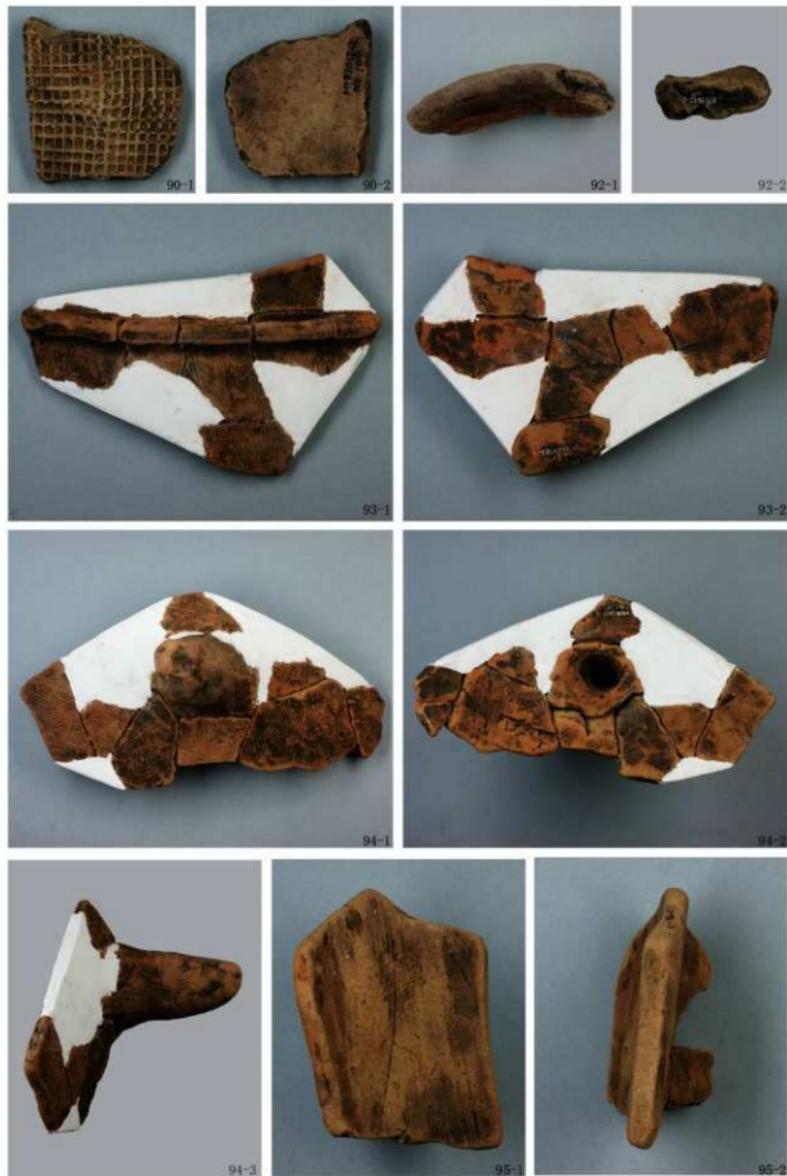


写真 233 出土遺物⑨



写真 234 出土遺物⑩



写真 235 出土遺物⑪



写真 236 出土遺物⑫

光徳内(御平塚遺跡・月持山遺跡)の調査



写真 237 出土遺物⑬

発掘内(御平塚遺跡・月待山遺跡)の調査



写真 238 出土遺物⑪



写真 239 出土遺物⑮

表21 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①白径②底径③高さ	色調 ①外面②内面	胎土	備考
1	No.0排土	繩文土器 深鉢	胴部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい褐色(7.5YR6/4)	0.1~3mmの砂粒を含む	
2	No.0~No.1間 堆土	繩文土器 深鉢	口縁部		①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②にぶい黄褐色(10YR5.3)	0.1~5mmの砂粒を含む	
3	No.0~No.1間 堆土	繩文土器 深鉢	底部		①②灰オリーブ色(5Y5/2)	0.1~3mmの砂粒を含む	
4	2地点SX 甕もしくは鉢	土師器 甕	口縁部 ~胴部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.1~2mmの砂粒を含む	
5	2地点SX	土師器 甕	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR6/4)	0.1~3mmの砂粒を含む	
6	2地点SX	須恵器 壺	底部	②(7.2)	①灰オリーブ色(5Y6/2) ②水色アッシュ色(2.5GY6/1)	0.1~2mmの砂粒を含む	
7	3地点SX	土師器 甕	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR7.3)	0.1~1mmの砂粒を含む	
8	3地点SX 拂土器種 甕もしくは甕	陶質土器 甕	胴部		①②にぶい黄褐色(10YR6/4)	0.1~2mmの砂粒を含む	
9	2~3地点間 ②壇	土師器 高环	裾部	裾部径(9.1)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②にぶい褐色(7.5YR6/4)	0.1~2mmの砂粒を含む	
10	2~3地点間 ②壇	韓式系 瓦質土器 盆	胴部		①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(5Y7/2)	0.1~1mmの砂粒を含む	
11	2~3地点間 堆土	土師器 高环	脚部		①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.1~3mmの砂粒を含む	
12	4地点ピット	土師器 甕	底部	②3.5	①②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1~2mmの砂粒を含む	外面丹塗り
13	5地点SX	土師器 甕	口縁部	①(14.6)	①黄褐色(10YR6/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/4)	0.1~1mmの砂粒を含む	接合しない、 胴部片あり
14	5地点SX	土師器 甕	口縁部 ~胴部	①16.3	①②にぶい黄色(2.5Y6/4)	0.1~1mmの砂粒を含む	
15	5地点SX	土師器 甕	胴部		①にぶい褐色(7.5YR6/4) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	0.1~1mmの砂粒を含む	

遺物 番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
16	5地点SX	弥生土器もしくは土師器 壺	底部	②(8.7)	①にぶい、黄褐色(10YR5/3) ②にぶい、黄色(2,5Y6/4)	0.1~3mmの砂粒を含む	東海系 模倣か	
17	5地点SX	土師器 壺もしくは鉢	口縁部		①黄褐色(2,5Y5/3) ②にぶい、黄色(2,5Y6/4)	精良		
18	NO.2SX (5地点SX純き)	土師器 壺もしくは鉢	口縁部		①にぶい、黄褐色(10YR5/4) ②にぶい、黃褐色(10YR7/3)	0.1~5mmの砂粒を含む		
19	6地点SX	弥生土器もしくは土師器 壺	底部	②(10.1)	①灰黄色(2,5Y6/2) ②浅黄色(2,5Y7/4)	0.1~2.5mmの砂粒を含む	東海系	
20	2地点~No.2 開墾土	土師質土器 壺	口縁部		①灰黄色(7,5Y7/1) ②浅黄色(2,5Y7/3)	0.1~8mmの砂粒を含む	佐野焼	
21	7地点 北西部①層	土師器 壺	口縁部		①明赤褐色(5YR5/6) ②にぶい、赤褐色(5YR5/4)	0.1~1mmの砂粒を含む		
22	7地点 北西部①層	土師器 壺	口縁部		①黄褐色(2,5Y6/3) ②赤オーバー色(5Y5/2)	0.1~2mmの砂粒を含む		
23	7地点 北西部①層	韓式系 軟質土器 壺	胴部		①稚色(5YR6/8) ②明赤褐色(5YR5/6)	0.1~5mmの砂粒を含む		
24	7地点 北西部①層	韓式系 軟質土器 鉢	胴部~ 底部		①にぶい、黄褐色(10YR6/3) ②にぶい、褐色(7,5YR6/4)	0.1~1mmの砂粒を含む		
25	7地点 北西部①層	須恵器 壺	胴部		①にぶい、褐色(7,5YR6/4) ②黃褐色(2,5Y5/3)	0.1~2mmの砂粒を含む	焼成不良	
26	7地点 北西部②層	韓式系 軟質土器 壺	口縁部~ 胴部	①(15.1)	①にぶい、褐色(7,5YR7/4) ②橙色(7,5YR7/6)	0.1~3mmの砂粒を含む		
27	7地点 北西部②層	韓式系 軟質土器 壺	胴部		①にぶい、褐色(7,5YR6/4) ②橙色(7,5YR6/6)	0.1~1mmの砂粒を含む		
28	7地点 北西部②層	韓式系 軟質土器 壺	胴部		①にぶい、黄褐色(10YR7/4) ②橙色(7,5YR7/6)	0.1~3mmの砂粒を含む		
29	7地点 北西部②層	韓式系 軟質土器 壺	胴部		①灰黄色(2,5Y6/2) ②にぶい、黄褐色(10YR7/4)	0.1~2mmの砂粒を含む		
30	7地点 北西部 2③層排土	韓式系 軟質土器 壺	胴部~ 底部		①にぶい、黄褐色(10YR6/4) ②にぶい、黄褐色(10YR7/4)	0.1~4mmの砂粒を含む		
31	7地点 北西部③層	土師器 壺	基部		①黄褐色(2,5Y5/3) ②灰黄褐色(10YR5/2)	0.1~3mmの砂粒を含む		
32	7地点 北西部 2③層排土	須恵器 高环	脚部	裾部径(10.2)	①にぶい、褐色(5Y6/1)	0.1~2mmの砂粒を含む		
33	7地点 北西部 2③層排土	韓式系瓦質土器 并もしくは壇	口縁部		①灰黄色(5Y7/3) ②灰白色(5Y7/1)	0.1~1mmの砂粒を含む		
34	7地点 南東部③層	土師器 高环	脚部~ 裾部	裾部径(12.1)	①にぶい、褐色(2,5Y6/3) ②にぶい、褐色(5YR6/4)	0.1~mmの砂粒を含む	外面丹塗り	
35	7地点 南東部③層	陶質土器 高环 もしくは脚付壇	裾部	裾部径(12.7)	①灰色(N4/0) ②灰色(N6/0)	0.1~2mmの砂粒を含む	伽耶系	
36	7地点 南東部③層	須恵器 高环	口縁部		①灰色(N4/0) ②灰色(7,5Y5/1)	0.1~1mmの砂粒を含む		
37	7地点 南東部③層	須恵器 壺	口縁部		①灰黄色(N5/0) ②赤灰褐色(2,5YR6/1)	0.1~2mmの砂粒を含む		
38	7地点排土	六連式製塙土器	胴部		①にぶい、褐色(7,5YR6/4) ②橙色(7,5YR7/6)	0.1~3mmの砂粒を含む		
39	7-2地点 埋焼	土師質土器 壺	胴部~ 底部	②(19.3)	①灰黄色(2,5Y6/2) ②黄褐色(2,5Y6/1)	0.1~5mmの砂粒を含む	佐野焼	
40	9地点 ③層	調文土器 深鉢	口縁部		①にぶい、黄褐色(10YR6/4) ②にぶい、褐色(10YR6/3)	0.1~1mmの砂粒を含む		
41	9地点 ③層	韓式系瓦質土器 繩か	胴部~ 底部		①②灰白色(5Y7/2)	0.1~1mmの砂粒を含む		
42	9地点 ③層	須恵器 壺	底部	②(9.4)	①灰色(N5/0) ②灰色(10Y6/1)	0.1~1.5mmの砂粒を含む		
43	10地点 ②・③層	土師器 壺	口縁部	①(20.1)	①にぶい、黄色(2,5Y6/4) ②にぶい、褐色(7,5YR7/4)	0.1~1mmの砂粒を含む		
44	10地点 ②層	六連式製塙土器	胴部		①にぶい、黄褐色(5YR5/4) ②にぶい、褐色(5YR6/4)	0.1~2mmの砂粒を含む		
45	10地点ビット	弥生土器 壺	口縁部		①②にぶい、黄色(2,5Y6/3)	0.1~3mmの砂粒を含む		
46	11地点ビット	土師器 高环	口縁部		①にぶい、黄褐色(10YR6/4) ②にぶい、褐色(7,5YR6/4)	0.1~4mmの砂粒を含む		
47	13地点ビット	六連式製塙土器	胴部		①にぶい、黄褐色(10YR6/3) ②にぶい、褐色(7,5YR6/3)	0.1~1mmの砂粒を含む		
48	No.2-1~No.2-2 ②層	土師器 壺	底部	①(6.9)	①②にぶい、黄褐色 (10YR6/3)	0.1~1mmの砂粒を含む		
49	14地点~15地 点間 ②層	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部		①橙色(5YR6/6) ②橙色(7,5YR6/6)	0.1~2mmの砂粒を含む		
50	15地点③層	磁器 瓶	口縁部~ 底部	①(12.1) ②(4.8)	裏地、灰白色(5YW1) 釉 明オーバー灰(2,5GY7/1)	精良	肥前系 (波佐見)	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		粘土	備考
					①外側	②内側		
51	15地点④層	土師器 壺	口縁部		①②にぶい黄色(2.5Y6/4)	0.1~3mmの砂粒を含む		外側面 丹塗り
52	16地点④層 上面機械削痕有	繩文土器 深鉢	底部	①10.8	①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	0.1~2mmの砂粒を含む		
53	16地点④層か (叢者表探)	弥生土器もしくは 土師器 壺	口縁部		①②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.1~1mmの砂粒を含む		山陰系
54	17地点 暗褐色粗砂	磁器 瓢	口縁部 ~底部	①(10.2) ②(4.0)	表面灰白色(7.5Y7/1) 底灰褐色(10Y6/1)	精良		肥前系 (波佐見)
55	18地点④層	土師器 壺	口縁部 ~胴部		①②にぶい黄橙色(7.5YR6/4)	0.1~2mmの砂粒を含む		
56	18地点④層	土師器 壺	口縁部	①(16.5)	①にぶい黄橙色(7.5YR5/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1~3mmの砂粒を含む		
57	18地点④層	韓式系軟質土器 もしくは鉢	胴部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.1~1mmの砂粒を含む		
58	18地点④層	韓式系軟質土器 もしくは壺	胴部		①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.1~1mmの砂粒を含む		
59	No.4~No.5間 耕土	弥生土器 壺もしくは鉢	底部	②(9.0)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰褐色(10YR6/2)	0.1~9mmの砂粒を含む		
60	22地点表探 (21地点の崩れ)	弥生土器 壺	底部	②5.4	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②灰原土色(5Y6/2)	0.1~5mmの砂粒を含む		
61	23地点③層か 壺もしくは壺	陶質土器	胴部		①黄褐色(2.5Y5/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1~1mmの砂粒を含む		
62	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 壺	口縁部	①(12.0)	①②暗灰黄色(2.5Y5/2)	0.1~3mmの砂粒を含む		
63	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 壺	口縁部	①(15.1)	①②黄褐色(2.5Y5/3)	0.1~3mmの砂粒を含む		
64	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 壺	口縁部 ~胴部	①(19.0)	①②暗灰黄色(2.5Y5/2)	0.1~3mmの砂粒を含む		
65	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 高杯	杯部	①(18.6)	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	0.1~2mmの砂粒を含む		
66	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 高杯	杯部	①(17.6)	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②灰褐色(7.5Y4/1)	0.1~2mmの砂粒を含む		67と同一か
67	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 高杯	脚部 ~根部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい黄褐色(7.5YR5/4)	0.1~1mmの砂粒を含む		66と同一か
68	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 高杯	脚部 ~根部	根部径(12.7)	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②にぶい黄褐色(10YR6/4)	0.1~3mmの砂粒を含む		
69	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 壺	口縁部 ~胴部	①(16.6)	①にぶい褐色(7.5YR5/4) ②灰褐色(2.5Y6/2)	0.1~3mmの砂粒を含む		
70	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 もしくは鉢	胴部		①灰褐色(10YR4/2) ②暗灰黄色(2.5Y4/2)	0.1~2mmの砂粒を含む		
71	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 もしくは鉢	胴部		①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.1~0.5mmの砂粒を含む		
72	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系 軟質土器 壺	胴部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)	0.1~3mmの砂粒を含む		
73	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系土器 軟質土器 壺	胴部		①②にぶい褐色(7.5YR5/4)	0.1~2mmの砂粒を含む		
74	27地点北東部 ④・⑤層	軟質土器 鉢	底部	②(9.2)	①黄褐色(2.5Y5/1) ②灰褐色(10YR6/2)	0.1~3mmの砂粒を含む		
75	27地点北東部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは壺	胴部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰褐色(5Y5/1)	0.1~2mmの砂粒を含む		
76	27地点北東部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは壺	胴部		①灰褐色(5Y5/1) ②褐色(10YR4/1)	0.1~2mmの砂粒を含む		
77	27地点北東部 ④・⑤層	陶質土器 壺	胴部		①灰褐色(5Y5/1) ②灰褐色(10YR5/2)	0.1~1mmの砂粒を含む		
78	27地点北東部 ④・⑤層	器種不明			①②灰色(N5/0)	精良		
79	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 壺	口縁部	①15.8	①②灰色(10Y5/1)	0.1~2mmの砂粒を含む		
80	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 壺	頸部		①②灰褐色(5Y4/1)	0.1~3mmの砂粒を含む		
81	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 壺	胴部		①灰色(N5/0) ②铁灰色(2.5Y6/1)	0.1~1mmの砂粒を含む		
82	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 壺	胴部		①灰色(5Y4/1) ②暗灰褐色(N3/0)	精良		
83	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 壺	胴部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②灰褐色(2.5Y6/2)	0.1~1mmの砂粒を含む		
84	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 壺	口縁部	①(16.8)	①灰褐色(7.5Y5/1) ②灰褐色(10YR5/2)	0.1~1mmの砂粒を含む		
85	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 壺	口縁部	①(17.2)	①にぶい黄褐色(10YR5/4) ②灰褐色(5Y3/1)	0.1~1.5mmの砂粒を含む		

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
86	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 壺	口縁部		①にぶい褐色(7.5YR6/4) ②にぶい褐色(7.5Y5/4)		0.1~2mmの砂粒を含む	
87	27地点南西部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 壺もしくは鉢	胴部		①にぶい褐色(7.5YR6/3) ②にぶい褐色(7.5YR6/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	
88	27地点南西部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 壺もしくは鉢	胴部		①にぶい褐色(10YR5/4) ②にぶい褐色(10YR5/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
89	27地点南西部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 壺もしくは鉢	胴部		①陶灰灰色(10YR4/1) ②灰黄褐色(10YR5/2)		0.1~3mmの砂粒を含む	
90	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	韓式系軟質土器 壺もしくは鉢	胴部		①灰黄色(7.5Y6/2) ②にぶい褐色(10YR6/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
91	27地点南西部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 壺	胴部		①灰褐色(2.5Y5/3) ②にぶい褐色(2.5Y6/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	
92	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	底部		①にぶい褐色(10YR6/4)		0.1~2mmの砂粒を含む	丹塗り
93	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	掛口部		①にぶい褐色(10YR5/4) ②にぶい褐色(7.5YR5/4)		0.1~1.5mmの砂粒を含む	94~97と 同一か
94	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	把手		①にぶい褐色(10YR5/3) ②にぶい褐色(7.5YR6/4)		0.1~3mmの砂粒を含む	93~95~97 と同一か
95	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	底部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい褐色(7.5YR6/4)		0.1~5mmの砂粒を含む	93~94~96~ 97と同一か
96	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	底部		①にぶい褐色(10YR6/4) ②にぶい褐色(10YR7/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	93~95~97 と同一か
97	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	基部 (掛口下部)		①にぶい褐色(7.5YR6/4) ②にぶい褐色(7.5YR5/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	93~96と 同一か
98	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	基部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい褐色(2.5Y6/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	
99	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	掛口部		②灰黄色(2.5Y6/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	100と同一か
100	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 圓形土器	基部		①②灰黄色(2.5Y6/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	99と同一か
101	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	陶質土器 平底鉢	口縁部 ~胴部		①灰色(N5/0) ②灰白色(N6/0)		0.1~1.5mmの砂粒を含む	伽耶系
102	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①黄色(2.5Y5/1) ②灰褐色(7.5Y4/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
103	27地点南西部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①灰黄色(7.5Y4/1) ②灰色(5Y5/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
104	27地点南西部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①②灰色(5Y4/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
105	27地点南西部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①黄色(2.5Y5/1) ②灰褐色(5Y4/1)		0.1~5mmの砂粒を含む	
106	27地点南西部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(7.5Y5/1) ②灰褐色(2.5Y5/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
107	27地点南西部 ④・⑤層	須恵器 壺蓋	口縁部 (10.9)		①灰色(5Y5/1) ②灰オーラー色(5Y6/2)		0.1~1mmの砂粒を含む 堆土出土 土器と接合	
108	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺蓋	口縁部		①灰色(5Y5/1) ②灰褐色(N6/0)		0.1~4mmの砂粒を含む	
109	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺蓋	口縁部		①灰色(10Y6/1) ②灰オーラー色(5Y6/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	
110	27地点南西部 ④・⑤層	須恵器 壺蓋	口縁部		①②灰色(N5/0)		0.1~2mmの砂粒を含む	
111	27地点南西部 ④・⑤層	須恵器 壺蓋	天井部		①灰色(7.5Y5/1) ②灰褐色(5Y6/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
112	27地点南西部 ④・⑤層	須恵器 壺蓋	天井部		①灰白色(SY7/1) ②灰褐色(5Y6/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
113	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺身	口縁部		①②灰色(7.5Y5/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
114	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺身	口縁部		①②灰黄色(2.5Y7/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	
115	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺	口縁部 (16.8)		①灰色(N5/0) ②灰色(5Y5/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
116	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺	口縁部		①灰色(7.5Y4/1) ②灰白色(7.5Y7/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
117	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(10Y5/1) ②灰褐色(5Y5/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
118	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(N5/0) ②灰褐色(5Y5/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
119	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(5Y5/1) ②灰褐色(10Y5/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
120	27地点南西部 ④・⑤層 堆土	須恵器 壺	胴部		①灰色(N4/0) ②灰色(7.5Y4/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調 ①外面②内面		胎土	備考
					①	②		
121	27地点南西部 ④・⑤層 接土	須恵器 鉢	口縁部		①②灰褐色(5Y5/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
122	No.8 ⑥層	土師器 鉢	口縁部	①(12.4)	①②灰オリーブ色(5Y4/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	
123	No.8 ⑥層	土師器	底部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②黒褐色(2.5Y3/1)		0.1~5mmの砂粒を含む	
124	No.8 ⑥層	須恵器 环蓋	口縁部	①(15.6)	①灰色(N5/0) ②灰色(N8/0)		0.1~0.5mmの砂粒を含む	
125	No.8-1~2層 ④層	弥生土器 壺	口縁部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②黄褐色(2.5Y5/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	
126	No.8-1~2層 ④層	土師器 环	口縁部 ~底部		①②橙色(7.5YR7/6)		0.1~0.5mmの砂粒を含む	
127	No.8-1~2層 ④層	土師器 蓋	基部 豊口下部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②褐灰色(10YR4/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
128	No.8-1~2層 ④層	土師器	把手		①黄灰色(2.5Y5/1) ②暗黄灰色(2.5Y5/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	
129	No.8-1~2層 ④層	弥生土器 もしくは土師器	底部	②7.2	①灰黄褐色(10VR5/2) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)		0.1~6mmの砂粒を含む	
130	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	土師器 环	口縁部		①②橙色(5YR6/6)		0.1~2.5mmの砂粒を含む	
131	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	土師器 蓋	口縁部		①黄灰色(2.5Y4/1) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)		0.1~4mmの砂粒を含む	
132	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	土師器 蓋	口縁部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②暗灰黄色(2.5Y4/2)		0.1~1.5mmの砂粒を含む	
133	No.8~No.8-1 ④層 接土 もしくは鉢	輪式系軟質土器	胴部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい褐色(7.5Y5/3)		0.1~5mmの砂粒を含む	
134	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	土師器 基部	豊口下部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②灰黄褐色(10YR4/2)		0.1~3mmの砂粒を含む	
135	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 环蓋	天井部		①灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)		0.1~2.5mmの砂粒を含む	
136	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 环蓋	口縁部~ 天井部	①(11.1)	①②灰色(N5/0)		0.1~3mmの砂粒を含む	
137	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 环蓋	口縁部~ 天井部	①(11.1)	①灰色(5Y5/1) ②黄灰色(2.5Y4/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
138	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 环蓋	口縁部		①②灰色(5Y5/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
139	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 环蓋	口縁部		①②灰色(5Y5/1)		0.1~6mmの砂粒を含む	
140	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 环蓋	口縁部		①②灰色(10Y5/1)		0.1~1.5mmの砂粒を含む	
141	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 环	胴部		①②灰色(N5/0)		0.1~2mmの砂粒を含む	
142	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 龍	口縁部		①②灰色(5Y5/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
143	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 蓋	口縁部~ 胴部	①(18.6)	①灰色(5Y5/1) ②灰色(5Y6/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
144	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 蓋	胴部		①灰色(7.5Y6/1) ②黄灰色(2.5Y5/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
145	No.8~No.8-1 ④・⑥層 接土	須恵器 蓋	胴部		①灰色(5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y6/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	
146	No.8-2付近 接土表面	陶質土器 壺	壺		①にぶい褐色(7.5YR5/3) ②にぶい赤褐色(5YR5/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
147	48地点 埋甕	土師質土器 蓋	口縁部		①橙色(7.5YR7/6) ②にぶい褐色(7.5YR7/4)		0.1~3mmの砂粒を含む	佐野焼

## (11)立会調査小結

今回の調査は構内の広範囲が対象となつたため、多大な成果があつた。以下、時期別に述べる。

縄文時代では、No.0において包含層が存在する可能性があるが、崩落により明らかにすることことができなかつた。また、9地点では縄文時代中期の深鉢片が出土し、広範囲で後～晚期とみられる土器片が出土したが、多くは古墳時代以後の落ち込み・遺物包含層からの出土で、遺構等は未確認である。

弥生時代についても同様である。遺構からも土器が出土したが、遺構面形成層が遺物包含層であるため、混入したものと考えられる。

今回、最も多く検出されたのは古墳時代の遺構・遺物包含層である。まず、北西部の状況について述べたい。2・3・5・No.2・6、13・14地点では落ち込み、7・9・10・18地点では遺物包含層が検出され、縄文土器、弥生土器、土師器、韓式系軟質土器、陶質土器、須恵器片が出土した。これらの落ち込み・遺物包含層の性格と連続性については十分な確認ができなかつたが、岐阜山の位置する南西側から廃棄された遺物が旧地形の落ち込む箇所に堆積したものと推測できる。しかし、南西側にあたる平成11年度、平成23年度調査区では、顕著な遺構・遺物が確認されていないため、構内外を含めた地域において、分布範囲を確認する必要がある。1・2・4・No.2・11・12・14地点における遺構の時期は遺構に伴う出土遺物がほとんどないため詳細は不明であるが、周辺の落ち込み・遺物包含層出土土器から、5～6世紀と推測される。

次に南東部の状況について述べる。27地点では遺物包含層を検出し、土師器、韓式系軟質土器、陶質土器、須恵器片が多数出土した。27-2地点における遺物包含層の検出標高は1.96mである。小片が多いが、土師器甕、須恵器壺蓋類の特徴から時期は5～6世紀と考えられる。なお、当館が27地点より約18m南西側で平成21年度に実施した中学校改修工事に伴う本発掘調査では、標高約2.7mで古墳時代と考えられる遺構面を検出している。以上から、旧地形は平成21年度調査区から北東側でやや急激に落ち込んでおり、包含層出土の土器は27地点より南西側から廃棄されたことが推測される。また、27地点の遺物包含層は、今回No.8周辺でも検出された附属中学校体育館周辺の遺物包含層と近似した黒褐色粗砂であることから、両者は一連であった可能性が高い。すなわち、かつて福本幸夫氏によって提示された予想包含層限界線は北西側にさらに広がるのではないだろうか。27地点の状況から包含層はさらに北西側に広がることが明らかであり、今後その分布範囲を確認することが必要である。

No.8周辺では、附属中学校体育館周辺で確認されていた遺物包含層を検出した。この包含層からは弥生土器、土師器、韓式系軟質土器、須恵器が出土した。古代以降の遺物をほとんど含まない点は過去の調査と同様で、主体は5～6世紀である。今回の調査では、38地点付近まで分布していた。39地点以東でも遺物包含層が分布していたが、土質が異なり、遺物量も少ない状況であった。以上から、No.8地点で検出された遺物包含層と39地点より南東で検出された包含層は別系統である可能性が高い。上記を前提とすれば、27地点からNo.8地点に分布する遺物包含層から出土する遺物は南西側、現在の小中学校校舎敷地周辺から廃棄されたものと考えられる。

上記を除く小中学校校舎敷地周辺では、42地点で遺物包含層を検出したほか、29、30、No.6-2、N.0.6-3、32、No.6-3-1、33、34～36、No.6-4-5、No.9B、No.9C、43・No.13、44、45、No.14、46、47、49、No.16、50、No.5-7でビット、土壤、遺構の可能性がある落ち込み等を検出した。しかし、本発掘調査と同様、遺構からほとんど遺物が出土しなかつたため、詳細な時期は不明である。本発掘調査でもみられた幅(径)100cm前後の大型土壤の一部は掘立柱建物の一部である可能性を考えたい。

次に特筆される遺物について述べる。まず、注目されるのは、6地点の落ち込みから出土した東海系

台付壺である。この壺は弥生時代終末期から古墳時代初頭に位置づけられるが、博多湾岸では同時期において多数の東海系土器が出土することが知られており、当該期において、御手洗遺跡が西部瀬戸内における海上交通上の重要拠点であったことがうかがえる。ただし、今回の調査区では同時期の遺物の出土量が少ないとから、近辺に拠点が存在した可能性が考えられよう。

古墳時代の遺物のうち、注目されるのは韓式系軟質土器、韓式系瓦質土器、陶質土器である。北西部の落ち込み、包含層、27地点、No.8周辺の包含層を中心に多数出土した。また、韓式系軟質土器は既往の調査においても、武道場敷地、平成11年度調査区<sup>12</sup>、平成15年度調査区<sup>13</sup>から出土している。上記はいずれも系統・器種・詳細な時期を断定できない小片が多いが、時期的には5~6世紀に位置づけられ、5世紀が中心とみられる。韓式系軟質土器には壺、鉢、瓶とみられる土器片、韓式系瓦質土器には壺、壺もしくは塊、鍋とみられる土器片、陶質土器には壺もしくは壺とみられる胴部片、平底鉢、高壺があり、分布状況から一時期に複数地点で使用・廃棄されていたと考えられる。以上から、御手洗遺跡には、朝鮮半島から来た渡来人が居住していたかもしくは立ち寄っていた可能性がきわめて高い。4世紀末~5世紀になると、近畿地方では須恵器、鉄器生産の技術導入に伴い、渡来人居住集落が増加する<sup>14</sup>が、御手洗遺跡の状況は正に上記に伴うものであろう。やや時期の下るものと含めて、御手洗遺跡が位置する室積湾周辺では、市延遺跡で新羅系陶質土器長頸壺(6世紀後半~7世紀前半)、伝室積出土の新羅系陶質土器長頸壺(6世紀末~7世紀前半)、伝西内出土の新羅系陶質土器脚付壺(5世紀後半)、伝長徳寺山古墳出土の新羅系陶質土器有蓋高壺(5世紀後半)などの朝鮮半島系考古資料が知られている<sup>15</sup>。以上から、室積湾周辺は山口県東部においては古柳井水道周辺と並び、古墳時代における海上交通上のきわめて重要な拠点であったことは疑いない。

古代については、9地点で須恵器壺、7・10・13地点で六連式製塙土器片が出土した。13地点では、ピットから出土したが、小片のため、古代の遺構とは断定できない。

中世については、時期を断定できる遺構は検出されず、遺物の出土も僅少であった。以上から、古代・中世の遺構については、遺構が検出されている武道場敷地より南東側、すなわち月待山遺跡にその中心がある可能性がある。

近世については、確実な遺構は7~2地点の埋甕のみであった。48地点の埋甕もその可能性があるが、埋設された佐野焼甕の特徴から近代に下る可能性がある。7~2地点の埋甕は上部が大きく削平されている。同様に上部を削平された埋甕は、7~2地点南西側に位置する平成11年度の上水道(給水管)改修に伴う立会調査区でも検出されている。また、近世の遺物の多くは近代の遺構面形成層もしくは近代以後の造成土からの出土であった。以上から、近世の遺構面は近代以後の附属学校前身施設の整備に伴って、大規模な削平を受けたとみられる。光構内では安永年間に会所が設置され、『防長風土注進案』によると、文化二年(1805)年に廻船の「荷揚波戸」(現在の学生研修宿泊棟敷地)が「御撫育方御藏会所沖手」に築かれたとされる。埋甕の出土地点は「荷揚波戸」の南側に位置することから、会所関連施設に伴うものと考えられよう。この他、当館が行った昭和58年度の小学校自転車置場設置に伴う試掘調査では、19世紀の土器を含む土で埋められた石垣状遺構が検出されており、関連性が指摘されている。今回出土した近世の陶磁器類の多くは18世紀後半以後に位置づけられるが、このことは、存在したであろう遺構の多くが安永年間に設置された会所関連施設に伴うものであったことによるのである。一方、「荷揚波戸」が存在したとされる学生研修宿泊棟敷地では、近代以後の施設整備に伴う造成が著しく、頗る著しい遺構・遺物は確認できなかった。

近代については、本発掘調査の第1遺構面に対応するとみられる遺構面のほか、石積(石垣か)、石

敷暗渠などが広範囲で検出された。

以上の調査成果のうち、特に古墳時代についてはこれまでの御手洗遺跡の評価を大きく変えるものであり、今後さらに調査を進める必要がある。

【註】

- 1) 田畠直彦(2004)「第8章3 平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X VI-X VII』,山口
- 2) 田畠直彦(2015)「第5節2 教育学部附属光小学校遊具設置工事に伴う立会調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成23年度』,山口
- 3) 久住猛雄(2005)「3世紀の筑紫の土器～北部九州・特に博多湾沿岸周辺における外来系土器の受容と展開」香芝市二上山博物館(編)『邪馬台国時代の筑紫と大和』シンポジウム資料集 香芝市二上山博物館,香芝(奈良)
- 4) 田畠直彦(2013)「第3章第6節 教育学部附属光中学校校舎改修工事に伴う本発掘調査・立会調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』,山口
- 5) 福本幸夫(1966)「II 光市における先原史時代の遺跡」,福本幸夫(編)『先原史時代の光市』,光(山口)  
横山成己(2005)「付篇 光市文化センター所蔵の御手洗遺跡出土遺物」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』,山口
- 6) 豊谷和之・田崎美佐(1994)「第3章 光構内教育学部附属光中学校武道場新設に伴う発掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X II』,山口
- 7) 註1と同じ
- 8) 横山成己(2005)「第1章第6節 教育学部附属光小学校エレベーター昇降路他新設に伴う試掘・立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』,山口
- 9) 今津啓子(1994)「渡来人の土器—韓式系軟質土器を中心として—」荒木敏夫(編)『古代王権と交流5 ヤマト王権と交流の諸相』名著出版,東京
- 10) 亀田修一(2008)「第五編第八章第一節 周防の韓式系考古資料」山口県(編)『山口県史』通史編 原始・古代,山口
- 11) 山口県文書館(編)1963『防長風土注進案第七巻 熊毛寧判』,山口  
小川国治(1975)「近世のひかりー海の利用と大川の効用ー」光市史編纂委員会(編)『光市史』,光(山口)
- 12) 森田孝一・磯部貴文(1985)「第4章 教育学部附属光小学校自転車置場設置に伴う試掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報III』,山口

## 付節1 平成24年度 山口大学構内遺跡調査要項

## 山口大学大学情報機構規則

改正 平成18年3月14日規則第27号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人山口大学学則(平成16年規則第1号)第9条第2項の規定に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)の大変情報及び情報基盤を総合的に整備する山口大学大学情報機構(以下「機構」という。)に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 機構は、次の施設をもって組織する。

(1)図書館

(2)メディア基盤センター

(3)埋蔵文化財資料館

2 前項の施設に関し必要な事項は、別に定める。

(業務)

第3条 機構は、次の業務を行う。

(1)大学情報及び情報基盤の戦略的整備計画の策定に関すること。

(2)大学情報及び情報基盤の整備の施策及び実施に関すること。

(3)情報セキュリティの施策及び実施に関すること。

(4)その他機構が必要と認めた事項に関すること。

2 前項の業務を行うため、機構は、各学部、各研究科、全学教育研究施設及び事務組織と相互に連携を図るものとする。

(運営委員会)

第4条 機構に、機構の管理及び運営に関する事項を審議するため、山口大学大学情報機構運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(情報セキュリティ委員会)

第5条 機構に、情報セキュリティに関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報セキュリティ委員会(以下「情報セキュリティ委員会」という。)を置く。

2 情報セキュリティ委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(情報基盤整備委員会)

第6条 機構に、情報基盤の整備に関する事項を審議するため、国立大学法人山口大学情報基盤整備委員会(以下「情報基盤整備委員会」という。)を置く。

2 情報基盤整備委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(機構長)

第7条 機構に機構長を置き、学术情報担当副学長をもって充てる。

2 機構長は、機構の業務を統括する。

(副機構長)

第8条 機構に副機構長2名を置き、本法人の専任教授のうちから機構長が指名した者をもって充てる。

2 副機構長は、機構長を補佐する。

3 副機構長の担当は、機構長が定める。

4 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、機構長である副学長の任期の終期を超えることはできない。

5 副機構長に次員が生じた場合の後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする

(専任大学教育職員)

第9条 機構に、専任大学教育職員を置く。

2 専任大学教育職員の選考は、運営委員会の議に基づき、学長が行う。

3 専任大学教育職員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 機構に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(趣則)

第11条 この規則に定めるもののはか、機構に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

平成24年度山口大学構内規則調査要項  
**山口大学埋蔵文化財資料館規則**

平成16年4月1日規則第148号

改正 平成17年3月24日規則第52号

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学大学情報情報規則(平成16年規則第13

9号)第2条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)の組織及び運営に際し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 資料館は、文化財保護法(昭和25年法律第214号)に基づき、国立大学法人山口大学(以下「本法人」という。)に所在する遺跡の埋蔵文化財の発掘調査及び研究を行い、出土品を収蔵・公開することを目的とする。

(業務)

第3条 資料館は、次の業務を行う。

- (1)本法人構内等から出土した埋蔵文化財の収蔵・展示及び調査研究
- (2)本法人構内等における埋蔵文化財の発掘調査及び報告書の刊行
- (3)その他埋蔵文化財に関する必要な業務

(職員)

第4条 資料館に、次の職員を置く。

- (1)館長
- (2)副館長
- (3)資料館所属の専任大学教育職員
- (4)その他必要な職員

2 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館にて特別調査員若手名を置くことができる。

3 特別調査員は、専門委員会の議に基づき、館長が委嘱する。

(館長)

第5条 館長は、大学情報機構長をもって充てる。

(副館長)

第6条 副館長の選考は、国立大学法人山口大学の専任の教授又は准教授のうちから山口大学大学情報機構運営委員会の議に基づき、学長が行う。

2 副館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副館長に欠員が生じた場合の後任の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

3 副館長は、館長を補佐し、日常的な業務の執行及びこれに必要な意思決定に際し、館長を助けるものとする。

(事務)

第7条 資料館に関する事務は、情報環境部学術情報課において処理する。

(隸属)

第8条 この規則に定めるもののほか、資料館に際し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第5条第1項の規定にかかるわらず、当分の間、館長は、大学情報機構副機構長のうちから大学情報機構長が指名した者をもって充てる。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

**山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会内規**

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学大学情報機構運営委員会(平成16年規則第140号)第8条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会(以下「専門委員会」という。)の組織及び運営に際し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 専門委員会は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」という。)に際し、次の事項について審議する。

(1)管理及び運営に関する事項

(2)整備充実に関する事項

(3)予算に関する事項

(4)その他資料館に際し必要な事項

(組織)

第3条 専門委員会は、次の委員をもって組織する。

(1)機構長

(2)副機構長

(3)館長

(4)副館長

(5)資料館所属の専任大学教育職員

(6)考古学担当の国立大学法人山口大学専任の大学教育職員

(7)メディア基盤センター所属の専任大学教育職員のうち館長が指名した者1名

平成24年度山口大学構内環境調査要項

(8)施設環境部長	第6条 専門委員会が必要と認めたときは、専門委員以外の者を専門委員会に出席させることができる。
(9)情報環境部長	
(10)情報環境部学術情報課長	(部会等)
(11)発掘調査地に開港のある部局の事務部の長	第7条 専門委員会は、必要に応じて部会等を置くことができる。
(任期)	2 部会等に開港必要な事項は、専門委員会が別に定める。
第4条 前条第7号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に次員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。	(事務)
(委員長)	第8条 専門委員会の事務は、情報環境部学術情報課において処理する。
第5条 専門委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。	(規則)
2 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。	第9条 この内規に定めるものほか、専門委員会の運営に開港必要な事項は、専門委員会が定める
3 委員長に事故あるときには、副館長がその職務を代行する。	
(委員以外の者の出席)	附 則 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

平成24年度 山口大学埋蔵文化財資料館専門委員会

委員長 山内 直樹（大学情報機構長・館長・農学部教授）

委員 小河原 加久治（大学情報機構副機構長・理工学研究科教授）

田中 晋作（副館長 人文学部教授） 村田 裕一（人文学部准教授）

小柏香穂理（メディア基盤センター助教） 藏田 秀夫（施設環境部長）

酒井 清彦（情報環境部長） 瓜生 照久（情報環境部学術情報課長）

田畠 直彦（埋蔵文化財資料館助教） 横山 成己（埋蔵文化財資料館助教）

## 付節2 山口大学構内の主な調査

表22 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年度	調査名	構内地図	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和41年	第I地区A・B区	L~N-15	1	30?	土壤・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠熙	年報 31-32
	第II地区家畜病院新営	R-20・21 S-T-19・20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	#	#	年報 3
	第II地区		3			弥生土器、土師器	試掘	#	
	第IV地区牛舎新営	S-T-10・11	4	300	弥生溝・土壤、古墳窓穴住居、中世住跡、溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	#	
	第IV地区		5				試掘	#	
	第III地区杭町区 および陸上競技場	D-19・20 E-17・19~21 F-17・18	6	1,600	杭列、弥生窓穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、矢板状木杭	事前	#	
	第III地区南区	G-21~23 H-22	7		河川路、柱穴	織文土器、弥生土器、木器、石器	#	#	
	第III地区北区	H-20 I-19~21 J-20・21	8	1,400	窓穴住居、溝、土壤、柱穴		#	#	
	第III地区東南区	G-23 H-23・24 I-J-24 K-23・24 L-23	9		弥生窓穴住居	弥生土器	#	#	
	第III地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試掘	#	
昭和42年	第V地区学生食堂	J-20 N-14 P-18	11		弥生溝、古墳土壤	弥生土器、土師器	事前	#	
	第V地区		12		河川路、柱穴、土壤	弥生土器、土師器	試掘	調査担当 山口大学吉田 遺跡調査室	
	第I地区C区大学本部新営	K-L-14	13	600	窓穴住居、溝、土壤	土師器、須恵器、瓦質土器	事前	#	
	第V地区教育学部				河川路	弥生土器、土師器、須恵器	試掘	#	
昭和44年	第I地区D区第1地点	L-13	14		近世大廈	弥生土器、木灰屑	#	#	
	第I地区D区第2地点	L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石鍋	#	#	
	第I地区D区第3地点	M-13・14	16		土壤、柱穴	弥生土器、瓦質土器	#	#	
	第I地区D区第4地点	M-N-14	17		土壤、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器	#	#	
	第I地区D区第5地点	L-12・13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	#	#	
	第I地区D区第6地点	M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	#	#	
	第I地区D区第7地点	M-N-13	20			須恵器	#	#	
	第I地区E区第2学生食堂新営	M-N-14・15 O-15	21	900	古墳窓穴住居、土壤溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鐵製品	事前	#	年報 X II
昭和50年	第II地区					弥生土器	試掘	#	
昭和51年	第III地区				窓穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	#	#	
昭和53年	人文学部校舎新営	M-N-21	22	160			#	調査担当 近藤義一	年報 X
昭和54年	教育学部附属養護学校新営	A-20・21 B-19・20 C-19	23	410	溝、土壤	織文土器、弥生土器	試掘	山口大学埋蔵 文化財資料館 山口市教育委員会	年報 IX
	理学部校舎新営	N-O-19・20	24	250			#		年報 X
	農学部動物学新営	P-19	25	380			#		
昭和55年	本部管理棟新営	L-14	26	740	溝、土壤、柱穴、中世井戸、土壤墓、住跡	弥生土器、土師器、石製品	事前		年報 X
	経済学部校舎新営	K-21	27	66			試掘		
	農学部農業機械実験施設新営	P-Q-15	28	50	溝、土壤		事前		年報 X
	本部環境整備	E-14~16 F-15~16	29				立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和55年	農学部環境整備	N-11 O-10・11 P-9・10	30				#		年報X
	教育学部校舎新設	H-19	31		弥生聚穴住居、土壙、溝、柱穴	弥生土器、石製品	事前		
	教育学部音楽棟新設	H-16	32		溝		#		
	教育学部美術科・技術科実験実習棟新設	J-K-19・20	33		旧河川、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器	#		
	正門橋脚新設	I-11	34						
	時計塔設置	I-14	35				#		
	本館構内排水取設	K-1-13・14	36				#		
	教養部構内排水取設	I-15-17 J-17	37				#	工法等変更	
	構内微循環道路設装	J-M-15 M-N-16	38				#		
	農学部中庭整備	N-O-17	39				#		
昭和56年	職員宿改修	O-16	40				#	工法等変更	年報Y
	学生部文化会車庫新設	M-B-9	41				#	工法等変更	
	学生部馬場整備	M-N-8-9	42				#		
	附属図書館増築	L-M-16	43	600	弥生～古墳、土壤、柱穴、杭列	弥生土器、土師器、須恵器、石器	事前		
	大学会館新設	M-N-14-15	44	130	弥生聚穴住居、溝	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護学校ホール新設	A-B-21	45	880			立会		
	放送性元素総合実験室	O-18	46	2			#		
	緑水園新宮								
	教養部自転車置場	L-17	47	10			#		
	附属図書館	J-K-16	48	150			#		
昭和57年	大学会館新設	M-N-12-13	49	2,000	古墳并戸、土壤、柱穴、中世井戸、羅立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器、輸入陶磁器、国産陶器、瓦質土器、縄文陶器、木簡、石器	事前		年報Z
	ラグビー場防球ネット新設	G-18-19 H-19-20	50	114	弥生層、弥生～古墳聚穴住居、土壤	弥生土器、土師器、石製品	#	聚穴住居は工法変更により現地保存	
	理学部大学院校舎新設	M-N-20	51	409			立会		
	正門・南門・輪車置場	I-J-12-13 H-23	52	183			#		
	学生院アーチチャーリー場の育・繩柱設置	N-6-9	53	33			#		
	学生部飯盒整備	M-7-8	54	1.6			#		
	学生部野球場散水栓取設	I-21 K-22	55	1			立会		
	教養部環境整備	I-15-16 J-15 K-17-18 L-18	56	81			#		
	C-18 D-17 E-15-16 F-16	57	12				#		
	大学会館ケーブル敷設	N-12	58	160	弥生土壤、柱穴	弥生土器	事前		
昭和58年	大学会館排水管布設	J-L-13	59	180	弥生～中世遺物包含層、古墳土壤、古代～中世土壤、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、瓦質土器	#		年報A'
	学生部テニスコート・フレスコ改修	B-17 C-16-17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試掘		
	経済学部樹木移植	K-19-21	61	8			立会		
	大学会館廻塀整備	L-14-15 M-N-15	62	592	弥生～中世遺物包含層、弥生聚穴住居、土壤、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、輸入磁器、国産陶磁器、土製品、石斧、原石、铁器、窑壁	試掘		
	経済学部環境整備(樹木移植)	K-L-20	63	5			立会		
昭和59年	農学部附属農場料園	R-17-19	64	30	古代末～中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、縄口、石器、铁器	#		年報B'
	排水溝復整備								
	農学部附属農場農道改修	V-15-17	65	325			#		
	教育学部前庭環境整備	I-J-19	66	430			#		
	中央ボイラー換車止設置	O-P-16	67	2.5		須恵器	#		
昭和60年	農学部環境整備(樹木移植)								年報C'

## 山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和60年	大学会館環境整備(樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石鍋、桃石、鉄滓	#		年報V
	交通標識設置	J-20 N-14 P-18	69	3			#		
	農学部解剖実習棟周辺環境整備 (実験動物運動場設置)	Q-18	70	16			#		
	理学部環境整備(緑帯設置)	N-21	71	4			#		
昭和61年	農学部附属畜産病院舎	S-T-19	72	270			#		年報VI
	国際交流会館新館	M-22・23 N-22	73	76	弥生～古墳河川跡 中世～近世墓	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器、鐵滓玉、加工痕のある剝片	試掘		
	山口銀行現金自動支払機設置 (電線路埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡か)	弥生土器	立会		
	農学部附属農場農道整備	S-20 T-U-19	75	165	中世溝、柱穴	土師器、瓦質土器	#	工法変更	
	農学部附属農場農道規制 (監査ボール設置)	M-10 P-15 Q-15～17	76	12			#		
	正門横(木田川)境界杭設置	J-10	77	0.25	包含層か		#		
	経済学部環境整備 (樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			#		
	吉田構内交通標識設置	G-23 K-9 O-22 S-20 V-17	79	3		須恵器	立会		
昭和62年	市道神郷1号線および 開田神郷線の送水管設設	B-17・18 C-18・19 D-19・20 E-20・21 F-21・22 G-22・23 H-23・24 I-J-K-24 L-23・24 M-N-23 O-22・23 P-Q-22 R-21・22 S-21 T-20・21 U-19・20 V-18・19 W-X-18	80	2,100	古墳・弥生遺、 古代河川跡、 弥生包含層	弥生土器、土師器、 須恵器 (墨書きのもの含む) 瓦質土器、製塙土器、 石斧、板石	立会	山口市教育 委員会 山口大学埋蔵 文化財資料館	年報VI
	教養部自動衝突機理設 (屋根設置および複数回移動)	K-L-18	81	3.5			#		
	教養部身体障害者用 スロープ設設	L-15・16	81	3			#		
	経済学部敷水廻取設	L-20	83	4			#		
	吉田構内水泳プール 改修等	E-15 F-15・16 H-15	84	26.5	包含層		#		
	農学部附属農場 木道管理設	S-12	85	3			#		
	吉田構内汚水排水管等 整修改	M-18 O-15	86	15.5		土師質土器	#		
	本部身体障害者用スロープ 設設	L-14	87	12			#		
	経済学部身体障害者用 スロープ設設	K-18～20 L-18	88	78			#	工法等変更	
	閉風図書館荷物運搬用 スロープ設設	L-16	89	8		弥生土器	#		
昭和63年	教養部37番教室改修	K-16	90	1			#		年報VII
	教育学部附属教育実践 研究指導センター新設	J-K-18・19	91	240		ブランク、削器、 植物遺体	事前		
	教養部複合棟新館	J-K-17	92	35	埋甕上墻、溝、柱穴	土師質土器、須恵器、 土師質土器、石斧	試掘		
	教養部複合棟新館	I-J-16	93	30	溝状遺構	弥生土器	立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和62年	教養部複合棟新営	J-K-17・18	94	900	郭・穴、河川跡、 窓穴・垣根、土壤、溝、 井戸、堆積土礫、 獨立柱・柱脚、 瓦状造構・柱穴	織文土器、土師器、 須恵器、土師質土器、 須恵質土器、 陶磁器、石器、石斧、 木製品	事前		年報Ⅷ
	九田川局部改修	B-16・17 C-16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化財資料館	
	国際交流会館新営	M-N-22・23	96	195			#		
	教育学部附属養護学校 自転車置場設置	B-20	97	1			#		
	農学部附属農場打綱場 排水管理設及び E施設進入路整備	L-N-12	98	55	中世土壤層か	弥生土器、土師器、 須恵器、輸入白磁、 国産磁器、磁石	#		
	農学部植栽	N-17	99	3			#		
	経済学部集水槽設置	J-20	100	0.5			#		
	教養部複合棟新営に伴う 自転車置場設置	I-16	101	1	包含層か		立会		
	国際交流会館新営に伴う 排水管理設	N-O-22	102	35	河川跡(溝か)、 包含層	弥生土器、須恵器	#		
	教養部複合棟新営に伴う ケーブル埋設	J-18	103	1			#		
昭和63年	サッカーラグビー場改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	#		年報Ⅸ
	消防用水設置	K-M-22	105	7.5			#		
	水銀灯新営	J-L-15	106	4	古墳横状造構柱穴	弥生土器、土師器、 須恵器、六連式製塗土器	事前		
	樺野寮ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新営	H-22 I-21・22 J-K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器	#		
	防火水槽配管布設	K-21・22	109	15	柱穴		#		
	吉田寮ボイラー設備改修	M-B	110	4			#		
	体育施設系給水管改修	G-H-16	111	50		陶器	# 工法等変更		
	大学会館前記念植樹	M-13	112	6			#		
	吉田寮ボイラー棟 地下貯油槽設備改修	M-B	113	45	包含層	土師器、須恵器、 土師質土器、陶器、 剝片、 二次加工のある剥片	#		
平成元年	第2武道場排水渠新営	G-15	114	2	渠		#		年報Ⅹ
	案内標識設置	I-14 I-18	115	0.5			#		
	本宿東宿給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	#		
	大学会館前庭環境整備	N-14・15	117	35	中世溝		#		
	大学会館前庭環境整備	M-15	118	2			#		
	第一学生食生活設備改修	I-J-19	119	7			#		
	教育学部附属養護学校案内板設置	E-20	120	1			#		
	農学部附属農場ガラス室新営	O-P-17	121	76	織文河川	織文土器、石器	試掘		
	農学部仮設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		須恵器	立会		
	農学部微生物実験室 その他機械設備改修	P-17	123	8			#		
平成2年	大学会館前記念植樹	L-M-15	124	2			#		年報Ⅺ
	サクル棲新営	F-14	125	1			#		
	農学部適合施医学科棟新営	O-P-17	126	980	織文河川	織文土器、石器	事前		
	交通規制標識及びバリアー設置	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		
	吉田構内道路 (南門ロータリー)改設	H-23	128	40			#		
	ボイラー室給水管漏水補修	O-16	129	4			#		
	農学部附属農場ガラス室新営	S-14	130	3.5			#		
	大学会館前記念植樹	L-M-15	131	3			#		
	東町平川駅緊急地方道路整備工事 及び山口大学吉田団地 環境整備(正門周辺)	E-11・12	132				#		
	東町平川駅緊急地方道路整備 (信号機設置)	I-11	133	7			#		
平成5年	本部裏給水管設置	K-M-13	134	70	渠、柱穴	弥生土器、土師器、 滑石製模造法	事前		年報ⅩⅢ
	人文学部・理学部講義棟新営	M-20	135	4			試掘		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (nf)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成5年	第2屋内運動場新設	G・H-16	136	144	廣	弥生土器、須恵器、砾石	#		年報XIII
	農学部水管理設	N～P-18	137	9			#		
	基幹整備 (屋外施設水管改修)	L-15 M-17・18	138	16			立会		
	農学部連合獣医学棟新設 電気設備	O-16	139	4			#		
	大学会館前庭アーチー設置	N-14	140	1			#		
	大学会館前庭記念植樹	L-15	141	1.6			#		
	九田川河川局部改良	C-16 D-15・16	142	40			#		
	農学部電柱立替	V-17	143	0.2			#		
	農学部ガラス窓設置	S-14	144	10			#		
	教育学部給水管管理設	H-1-19	145	15			#		
	環境整備(大学会館前庭)	L-14 M-13～15 N-14-15	146	140.9			#		
	H-20	I-19～21 J-20・21	147	361			#		
	環境整備(遺跡保存地区)	G-13 H-12	148	350			#		
	グランド屋外照明施設新設	E-20 F-21 G-18-22 H-19-20 I-21	149	600	調文河川、弥生住居、廣、土坑、弥生～古墳河川、近世溝	調文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砾石、磨石、鐵石	事前工法等変更		
	第2屋内運動場新設	G-I-15・16	150	726	弥生～古代溝、貯蔵穴、土坑、近世溝、土坑	弥生土器、土師器、須恵器、砾石、磨石、鐵石、瓦質土器、土師質土器、陶器、磁器、瓦、下駄	#		
平成6年	グランド屋外照明施設配線埋設	F-21 G-20-21 H-19-20	151	200	調文河川、弥生住居、廣、土坑、弥生～古墳河川、近世溝	調文土器、弥生土器、土師器、ガラス小玉、砾石、磨石、鐵石	#工法等変更		年報XIV
	経済学部商品資料館新設	K-1-21	152	87.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験施設理屈桿新設	H-12-13	153	2	河川		#		
	体育器具庫及び便所新設	G-I-17	154	60	河川		工法等変更		
	経済学部商品資料館 仮設電柱設置	L-22 M-22-23	155	5			立会		
	人文学部前駐車場整備	K-23 L-22-23	156	6			#		
	教育学部附属養護学校 生活俱楽部新設	F-19	157	2			#		
	テニスコート改修	B-17 C-16-18 D-15～17 E-15-16	158	15			#		
	教育学部附属養護学校 生活訓練施設新設	B-20～22 C-20	159	16			#		
	陸上競技場整備(透水管埋設)	C-18 D-18-19	160	200			#		
	ハンドボール場改修(プレハブ設置)	K-22	161	30			#		
	野球場フェンス改修	H-22 I-21-22	162	3			立会		
	基幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O-16	163	4	河川か		#		
	九田川河川局部改良	D-15 E-14-15	164	100			#		
	第2屋内運動場電柱設置	G-14-15	165	0.5			#		
	教養部水管破裂修理	I-16	166	2			#		
	グランド屋外照明施設配線埋設	E-20 F-20～21 G-18-19-22 H-19-20 I-20-21	167	150			#		
	公共下水道接続 (教育学部附属養護学校 プール排水施設設置)	A-21	168	4			#		
	サークル棧橋給水管埋設	F-14	169	1			#		
	プール新設給水管設置	E-15 F-15-16	170	10			#		
	公共下水道接続 (汚水管雨水排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器	#		
	教育学部ロープ設置(音楽棟)	H-17	172	10			#		

## 山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 7年	農学部H1実験研究施設新宮	Q・R-17	173	75	近世溝	磁器	試掘		
	農学部H1実験研究施設新宮	Q・R-17	174	520	中世井戸、近世溝	石斧、須恵器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道接続	C-18 E-16 G-14	175	70	溝、土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、土師器	試掘		
	公共下水道接続	C・D-18 D・E-17 E・F-16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	弥生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新宮	T-10	177	22			試掘		
	施設宿舎改修	N・O-22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N・O-15	179	48	柱穴、包含層	石器	試掘		
	第2層内運動場外周照明施設 新設	G-15・16	180				立会		
	機器分析センター新營工事用 電柱新設	O-19～21 P-22	181				〃		
	農学部附属家畜病院ハリカー新設	S-20	182				〃		
	吉田寮可燃ごみ置場新設	N-10	183				〃		
	農学部H1実験研究施設電気・情報 ケーブル及びガス・給排水管布設	Q・R-17	184				〃		
	情報処理センター新設	O-19	185				〃		
	基幹環境整備 (ATMネットワークケーブル布設)	F-19～20 F-18・19 G-18	186				〃		
	基幹環境整備(外灯新設)	I-15～16 J-20 K-19 M-10～11 N-12 O-16～18・20 P-18・19 Q-17～18	187				〃		
平成 8年	基幹環境整備(施設宿舎・国際交流 会館排水管布設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報 XVI
	基幹環境整備(外灯新設)	H-I-21～22	189	306	河川	織文土器、弥生土器、 土師器、石器	試掘		
	農学部附属農場排水管布設	S-10～11	190	93	包含層、ピット	土師器、須恵器	試掘		
	地上工競技場鉄棒取設	G-18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農場排水渠改修	R-11	192	2.2			〃		
	種野寮ハリカー新設	O-20～21	193	7			〃		
	サッカーフィールド給水管取替	H-19～20 I-19	194	12	包含層		〃		
	基幹環境整備(共通教育セン タースロープ・ラダース新設)	J-K-17	195	14.3	河川	織文土器、須恵器	〃		年報 XVII
	丸田川河川局部改良	E-14	196	18			〃		
	農学部附属農場道路舗装	K-12～13 L-12 M-11	197	27.6	近世用水路、溝状遺構	弥生土器、土師器、 須恵器、陶器、磁器	〃		
平成 9年	本部裏排水管取替	K-14	198	2			〃		
	農学部附属農場家畜病院 整備会場設置	S-T-19	199	1			〃		
	農学部附属農場堆肥合倉新宮	S-10	200	41.5			試掘		
	農学部ハイオ環境新御施設 新宮	Q-15～16	201	140	河川、溝	土師器、須恵器、 製塙土器、石器	試掘		
	カーブミラー新設	M-11 N-21	202	0.8			立会		
	基幹環境整備(外灯新設)	J-K-21 K-L-22 L-23	203	23.5	包含層		〃		
	共通教育棟エレベーター新設	K-16	204	42			〃		
	丸田川河川局部改良	E-14	205	48			〃		
	本部2号館西側ハリカー新設	L-13	206	0.5			〃		
平成 10年	教育学部附属農場学校 時計塔新設	D-21	207	1.4	包含層	土師器	〃		
	基幹環境整備(教育学部附属 農場学校排水管取替)	C-D-21	208	17	河川		〃		
	基幹環境整備 (施設建蔽率土支さとり)	O-16	209	40			〃		
	第2学生食堂増築及び改修	N-O-15	210	730	雁立柱建物、溝、 土坑、柱穴	弥生土器、土師器、 須恵器、陶器、磁器、 石器、鉄製品	事前		
	教育学部附属農場学校給食室改修	C-21	211	9	織文河川、土坑、柱穴	織文土器、弥生土器	試掘		
平成 10年	丸田川河川局部改良	E-F-14 F-13	212				立会		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成10年	基幹環境整備(ハリカーニ新設)	H-15 I-J-20 O-16-18	213				#		
	農学部動物用棧却架改修	Q-18	214				#		
	基幹環境整備(外灯新設)	L-17-19 M-N-18	215				#		
	理学部スクープ新設	M-18	216				#		
	ステンレス回転モニメント新設	M-13	217				#		
平成11年	第2学生食堂増築その他の伴う 埋地電力線路施設整備	O-14~16	218		包含解、柱穴、河川	土師器、須恵器	#		
	九田川河川局部改良	F-G-13 G-H-12	219				#		
	第2学生食堂北西補壁新設	N-14	220				#		
	ハリカーニ削削防護ネット新設	G-H-22	221				#		
	第1体育館・共通教育本館 スクープ新設	H-15 K-16	222				#		
	I-12 K-L-18	223					#		
	基幹環境整備(外灯新設)	L-15 M-N-17					#		
	総合研究棟新設	Q-18 R-17~19	224	250	河川	土師器、須恵器	試掘		
	総合研究棟新設	Q-R-18~19	225	830	河川、土坑	織文土器、土師器、 須恵器、製塙土器、 瓦質土器、石器	事前		
	飯舎及び周辺施設改修	M-8	226				立会		
平成12年	O-15 P-15~16 Q-14~15*	227							
	架空電線取り外し埋設	18-19 R-13-14 R-S-19 S-14			包含解		#		
	九田川河川局部改良	H-11~12 I-10~11 J-9~10 K-L-9	228				#		
	山口合同ガスガバナー室新設 及びガス配管布設	O-P-22	229				#		
	基幹環境整備 (ハリカーニ新設)	N-22 M-10 V-17	230				#		
	あずまや新設	L-18	231				#		
	共通教育センター空調設備 新設	J-16	232				#		
	基幹環境整備(外灯新設)	J-K-21 M-10	233				#		
	経済学部校舎改修 (プレハブ校舎新設)	K-21	234	40	河川	織文土器、土師器、 須恵器	試掘		
	九田川河川局部改良 (平成12年工事追加分)	K-9 L-S-9	235	42	河川		立会		
平成13年	総合研究棟新設(屋外配管布設)	P-Q-18	236	60			#		
	M-18~20 N-19~21 O-19	237	76				#		
	九田川河川局部改良	L-8	238	96			#		
	I-14~15 J-L-15 M-15 V-16 Q-17~19 R-17~19 S-T-U-V-17	239	15.4	河川			#		年報 XXI
	理学部校舎改修2期 (ボンボ室配管布設)	M-19	240	11			#		
	理学部校舎改修2期 (自転車置場・渡り廊下屋根新設)	M-N-20	241	196			#		
	第1学生食堂・イン改修	I-J-19	242	6			#		
	経済学部校舎改修 (プレハブ校舎配管布設)	L-21	243	10			#		
	農学部校舎改修(解剖実習棟 プレハブ校舎新設)	R-S-19	244	520	脳立柱建物、柱穴、 土坑、包含層、河川	土師器、須恵器 (墨書き土器)、 製塙土器、鍍錫陶器、 瓦、輪印、銅鈴石	事前		
	農学部附附属農場実験圃整地	O-14	245				立会		
平成14年	農学部校舎改修	N-Q-17~18	246		河川	織文土器	#		
	理学部改修3期工事(柔品庫揭示板、 自転車置場新設)	N-O-19 M-19-20	247				#		

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成14年	東アジア研究科 プレハブ校舎新設	N-21	248				"		年報1
	農学部校舎改修(解剖実習棟 プレハブ校舎新設)	R-S-19	249		河川、包含層		"		
	教育学部トイレ改修	I-18	250				"		
平成15年	農学部附属農場ガス管漏洩修理	O-P-16 Q-15	251	12	河川		立会		年報1
	教育学部附属農場校舎給食調理員 専用トイレスペース新設	C-21	252	1.7			"		
	農学部環境施設実験棟南側温室	P-Q-15	253	52			"		
平成15年	理学部中庭舗装樹木新設	N-19	254	5.8			"		年報1
	理学部中庭あづまや新設	N-20	255	6.8			"		
	基幹環境整備(外灯)	F-16, H-14 G-13~15+18 I-16~19 J-19, L-12 Q-15	256	11.5	河川		"		
平成17年	教育総合研究センター改修Ⅰ期	J-K-16	257	130	ビット、河川	弥生土器、土師器	予備		年報3
	教育総合研究センター改修Ⅰ期	I-J-K-16 H-12, E-20	258	580	ビット、河川	弥生土器、土師器 須恵器	立会		
	日本・ベラージー学会 木田土壤の断面調査	R-16	259	3.1	河川		"		
平成17年	基幹環境整備(外灯)取設	H-17~22+23	260	7.7			"		年報3
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K-L-16, K-17 J-16~17	261	92	ビット、溝、河川	弥生土器、土師器 石器	予備		
	農学部附属畜産病院改修Ⅰ期	S-20	262	36	包含層・谷	土師器・須恵器 製塙土器	予備		
平成18年	農学部附属畜産病院改修Ⅰ期	S-20	263	225	縦立柱建物跡、溝、土壤	土師器、須恵器 縄袖陶器、木製品(柱根)	本		年報4
	農学部附属畜産病院改修Ⅰ期	S-20	264	19	瓦含層		立会		
	教育総合研究センター改修Ⅱ期	K-L-16	265	84	ビット、河川、糾列	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器	本		
平成18年	教育総合研究センター改修Ⅱ期	J-K-L-16 I-J-K-L-17	266	480	ビット、河川、溝	弥生土器、土師器 打製石斧、柱根	立会		年報4
	資料館(東亞經濟研究所)新宮	L-20~21	267	100	土壤、落ち込み、河川		予備		
	プレハブ倉庫移設	I-16	268	29			立会		
平成19年	第一学生食堂改修	J-20	269	75			"		年報5
	国際会議前広場環境整備	L-17~18	270	55			"		
	プレハブ校舎新設	F-14~15, G-15	271	400			"		
平成19年	人文学部外用電源敷設	M-20	272	6			"		年報5
	テニスコートフェンス改修	B-C-17, C-18	273	10	河川、包含層		"		
	農学部附属動物医療センター改修Ⅱ期	T-20	274	48	土壤、ビット	土師器・須恵器 瓦質土器	本		
平成20年	駐車場整備工事	J-21	275	10			立会		年報6
	資料館(東亞經濟研究所)新宮	L-20~21	276	550			"		
	第一事務局庁舎改修	L-15	277	5			"		
平成20年	吉田前配水管敷設	M-11	278	11			"		年報6
	農学部附属農場内電源敷設	Q-15, S-18	279	0.5	ビット	須恵器	"		
	経済学部研究棟改修工事	L-M-19	280	26	河川、落ち込み		予備		
平成20年	新教育研究棟新設	M-N-11~12	281	473	谷、ビット、溝	弥生土器、土師器 須恵器、瓦質土器 青磁	"		年報6
	新教育研究棟設備開通工事	L-12~14 M-12~13	282	313	ビット、溝、土壤	土師器、須恵器 縄袖陶器、白磁、青磁 因縄陶器、鏡石	本		
	新教育研究棟新設	M-N-11~12	283	1,333	縦立柱建物、ビット 溝、土壤、井戸、谷	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器、青磁 縄袖陶器、瓦質土器 木製品	"		
平成21年	農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期	T-19 S-20	284	250	縦立柱建物、ビット 溝、谷	弥生土器、土師器 須恵器、製塙土器 青磁、瓦質土器 木製品	"		年報7
	国際交流会館田舎改修工事	N-O-22 N-23	285	457	河川		立会		
	サッカーラウンド防球ネット取設	H-21~22 I-21	286	8.5	河川、ビット		"		
平成21年	正門改修等工事	L-13 M-12~13	287	174	ビット、溝、落ち込み	土師器、須恵器 瓦質土器、陶器、磁器	"		年報7
	教育実践センター側リフレッシュ取設	K-19	288	2	土壤	縄文土器	"		
平成21年	東アジア研究棟・経済学研究科新宮	K-21	289	117	溝、河川	弥生土器、土師器 須恵器、木製品	予備		年報7

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
	野球場防球ネット取設置	H-23 I-24	290	40	ピット、溝、包含層	弥生土器、石器	予備		
	教育部研究実験A棟改修	H-17~18 I-8~24	291	35.3			#		
	里山整備工事	Q-10 O-P-Q-11	292	36.9			#		
	新教育研究棟新設	L-12 H-13 M-14	293	340.5			立会		
	ピオーネ周辺雨水配水管取設	H-12	294	60			#		
	仮設尚庄引込工事	L-M-10-11	295	7			#		
	ため池整備工事	S-8	296	130			#		
	基幹整備(新設管改修)	J-14~15	297	156	包含層		#		
	事務局外灯設置	J-14	298	1			#		
	第1事務局庁舎駆除車両カーボン設置	L-14	299	1.2	ピット		#		
	基幹・環境整備	H-13	300	300			#		
平成21年	(第1体育館周辺排水整備)	N-8 O-S-9	301	700			#		
	男子学生寮東側(隣)建災復旧	N-21	302	10			#		
	人文部屋外灯設置	M-20	303	750			#		
	人文部屋西側アプローチ改修	K-18	304	40	包含層、河川		#		
	教育部研究実験棟A棟改修電気設備	O-20	305	0.3			#		
	理学部ソーラー外灯設置	P-17	306	9			#		
	農学部インターロッキング設置	S-19~20	307	154	包含層、埋没谷	土師器、須恵器	#		
	農学部附属農場水田暗渠排水	S-15 T-15 U-15 V-15	308	96	包含層、河川	土師器、須恵器	#		
	農学部植物工場新設	P-15	309	96	包含層	土師器、須恵器	#		
	男子学生寮新設	M-10~11	310	1350			#		
	ラグビー場排水整備	E-20 F-21	311	58.6			#		
	アーチ型エレベーター整備工事	N-7~8 O-7~8	312	750			#		
	テニスコート改修	C-17 D-16~17	313	18.3			#		
	共育教育講義棟改修	L-17	314	11.6			#		
平成22年	石庭美術場整備その他の	N-O-P-8 Q-9	315	29			#		
	教育学部研究実験棟B棟改修工事	H-1~J-18	316	80	落ち込み、溝	弥生土器	予備		
	音楽サークル新設工事	G-14	317	13.5			立会		
	教育学部研究実験棟G棟改修工事	G-18	318	22			立会		
	吉田寮改修工事	L-M-9	319	1,820			#		
	基幹整備(施設改修)工事	Q-18	320	13.6	河川		#		
	基幹整備(第1体育館周辺排水整備)工事	G-13	321	8			#		
	事務局2号室車寄せ取設工事	L-14	322	3.6	土壤		#		
	里山遊歩道手探り取設工事	N-O-14	323	15.2			#		
	人文部屋外輪場外灯設置工事	M-22	324	13.6			#		
	教育学部附属特別支援学校構内雨水排水桶施工	C-D-21	325	18	包含層、河川		#		
	農学部附属農場水田暗渠排水工事	R-S-19	326	10	ピット、溝、土壤		#		
平成23年	特高受電設備新設工事	P-Q-16 R-S-T-U-V-17	327	380	ピット、杭列、河川	土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器、石器	本立会		
	基幹整備(第1体育館周辺排水整備)工事	G-13~14	328	72			立会		
	埋蔵文化財資料館アプローチ設置工事	N-16	329	48			#		
	第2学生食堂西側	M-15	330	8			#		
	ダブルパンシチ取設工事	P-15	331	224	ピット		#		
	農学部植物工場新設工事	P-15	332	224	ピット		#		
	農学部連合歯科医学科横倉庫敷地新設工事	O-17	332	75			#		
	教育学部附属特別支援学校敷地増設工事	C-D-21	333	16.8			#		
	図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路巡回)工事	M-16	334	172	河川、杭列	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、縄輪御器、製塙土器、石器、木器、鈴貝丸軸	本立会		
	産業動物実験施設新設工事	S-T-10	335	45			予備		
	種野寮新宮工事	O-21~22 P-22	336	48	溝	須恵器	予備		
	第1学生食堂増築工事	I-19~20 J-20	337	66.1	河川、ピット	弥生土器、土師器	予備		
平成24年	D-17~19 E-17~19 F-16~19 G-16~18	338	495	河川、溝			立会		
	陸上競技場トラック排水溝改修工事	M-20	339	42.75			#		
	農場本館事務室等改修機械設備工事	R-S-13	340	27			#		
	(図書館改修)その他の工事	K-10	341	25			#		
	(廃棄物)プール設置								
									年報10

## 山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成24年	国際交流会館1号館引込 給水管改修工事	M-N-22	342	15			立会		年報16

## その他構内

調査年度	調査名	構内地区別	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和59年	学生部示ト軽車 合宿研修所整備	宇品市大字小野 宇土井	0.5			立会		年報IV
昭和60年	学生部コット軽車 合宿研修所整備	吉敷郡秋穂町 東字中道				#		
昭和61年	熊野花輪機船取扱	山口市熊野町3-21	7			#		年報V
昭和61年	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉 6丁目8-29	35	杭		#		
昭和63年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市旭通り 2丁目3-32 山口市 水の上町6-9	1 7		土師質土器 瓦	# #	6号宿舎 2号宿舎	年報VI
昭和63年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市白石 二丁目8-7	1		陶器、土師器、 土師質土器、 瓦質土器、陶磁器	#	7号宿舎採集	年報VII
平成元年	本部職員宿舎 公共下水道切替	山口市水の上町 6-1	1			#	1号宿舎	年報VIII
平成2年	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市石鏡音町 1-25	1.2		陶磁器	#	7号宿舎	年報IX
平成3年	経済学部職員宿舎 共用下水道切替	山口市香山町 3-1	0.5			#	3号宿舎	年報X
平成4年	湯田宿舎A棟給配水 その他の改修	山口市湯田温泉 6丁目	30			#		
平成4年	経済学部6号職員宿舎 柱杭設置	山口市旭通り 2丁目3-32	0.5			#		年報XI
平成4年	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市天花 932-2	1			#		
平成4年	上塙小路共同下水管布設	山口市上塙小路 宇久保7-4	7			#		年報XII
平成6年	湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修	山口市湯田温泉 6丁目8-29	44			#		年報XIV
平成15年	ポート合宿所給排水整備	宇品市大字小野 宇土井	80			確認		年報I
平成16年	湯田宿舎B棟自転車置場新設	山口市湯田温泉 6丁目8-29	11			確認		年報2
平成17年	経済学部職員宿舎2号フレスヌ取替 工事	山口市水の上町6-9 1-33-34	1 15			確認		年報3
平成21年	排水施設改修	山口市秋穂東706-2	4.5			確認		年報7
※文献① 山口大学吉田遺跡調査団『吉田遺跡発掘調査概報』(山口大学、1976年)								
※昭和41年以降、吉田構内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の開示した調査については、調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。								

## 白石構内

山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	古墳壇穴住居、溝状造構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試掘		年報Ⅲ
昭和60年	教育部附属山口小学校 排水管改修		2	1			立会		年報V
昭和60年	教育部附属山口中学校 建物ヨリ一整備		3	2			#		
昭和61年	教育部附属山口中学校 運動場整備(樹木植樹)		4	1			#		
昭和61年	教育部附属山口小学校 排水管改修	幼稚園・ 小学校部分	5	57	中世土塹か、	繩文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 瓦質土器、土師質土器、	試掘		年報VI
昭和61年	汚水排水管布設	中学校部分		20	河川跡か杭列	陶磁器、不明鉄製品、 石礫、剝片。植物遺体			
昭和61年	教育部附属山口小学校 電柱移設		6				立会		年報VI
昭和62年	教育部附属幼稚園 造戸室改修		7	40			#		年報VII
昭和63年	教育部附属山口中学校 屋内消火栓設備改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剝片	#		年報VIII
平成元年	教育部附属幼稚園・ 山口小学校汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳壇穴住居、 土塹、溝、柱穴、 河川跡	繩文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 瓦質土器、 須恵質土器、 黒色土器、器類、 二次加工のある剝片、 使用痕のある剝片、 剝片、石核、砾石	事前		年報IX
平成2年	教育部附属幼稚園 バーニコート支柱設置		10	0.3			立会		
平成2年	教育部附属幼稚園・ 山口小学校汚水排水管布設		11	170	弥生溝状造構	弥生土器、土師器、 打製石斧等、 削器、剝片、石核	#		
平成6年	教育部附属山口小学校 污水排水管布設		12	70	溝状造構	繩文土器、弥生土器、 土師器、瓦質土器、 不明鉄製品、石礫、 砾石、扁平打製石斧、 砾石、剝片	事前		年報X
平成7年	教育部附属山口中学校 自転車置場新設		13	130		弥生土器、土師器、 須恵器、土師質土器、 瓦質土器、 圓底陶器等、 扁平打製石斧、砾石	立会		
平成10年	教育部附属山口小学校 給食室改修		14	3			#		年報XIV
平成12年	教育部附属山口中学校 防球ネット新設		15	7			#		
平成14年	教育部附属山口中学校 給水設備改修		16				#		
平成14年	教育部附属幼稚園運動場整備		17				試掘		
平成15年	教育部附属山口小学校 給水設備改修		18				立会		
平成15年	教育部附属山口中学校 給水設備改修		19				#		
平成15年	教育部附属幼稚園運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	#		
平成15年	教育部附属山口小学校新設 山口小学校スロープ新設		21	27.7			立会		年報1
平成16年	白石地区市道歩道改修		22	1	河川		立会		
平成16年	教育部附属山口小学校事務室新設		23	101	河川、土壤または溝		#		年報2
平成17年	教育部附属山口小学校幼稚園・小学校 フェンス・通用門改修		24	11			#		
平成17年	教育部附属山口小学校幼稚園・小学校 給水管改修		25	10			立会		年報3
平成19年	教育部附属山口中学校校舎等改修		26	121	河川、落ち込み、ビット	繩文土器、弥生土器	予備		年報5
平成21年	教育部附属山口中学校校舎等改修		27	38	河川、包含層		立会		年報7
平成21年	教育部附属山口小学校共用棟・ 教室B棟間渡り廊下屋根取設		28	2.5			#		

## 山口大学構内の主要な調査

調査 年度	調査名	構内地区割	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	造 塉	遺 物	調査 区分	備 考	文 献
平成 21年	教育学部附属幼稚園園内中庭池 改修整備		29	50	落ち込み		立会		年報 7
平成 22年	教育学部附属山口中学校中庭庭敷付 造り廊下設置		30	1,5			#		年報 8
平成 23年	教育学部附属学校園案内板設置工事 教育学部附属幼稚園 渡り廊下樹木移植工事		31	12			立会		年報 9
平成 24年	教育学部附属幼稚園遊具設置工事 教育学部附属幼稚園 園舎テラス取設工事 教育学部附属山口中学校 看板表示設置工事 教育学部附属山口中学校テニスコート 防球ネット溝上工事 教育学部附属山口中学校武道場新築 植物移植工事		32	1			立会		年報 10
			33	11,5			#		
			34	0,35			立会		
			35	7,9			#		
			36	0,6			#		
			37	4,8			#		
			38	3			#		

## 小串構内

調査年度	調査名	構内地図割	地点	面積(㎡)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	医学部体育館新営		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報Ⅲ
	医学部書庫増築		2	4			立会		
	医学部体育館新営		3	1			"		
昭和59年	医学部浄化槽新営		4	44	近世溝	土師器、瓦質土器、磁器	事前		年報Ⅳ
	医学部体育館新営		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	"		
	医学部基幹整備 (特高受電線改設)		6	28		動物遺体(貝殻)	試掘		
昭和60年	医学部臨床講義棟 病理解剖棟新営		7	38			"		年報Ⅴ
	医学部附属病院 外来診療棟新営		8	390		土師質土器、瓦質土器、陶磁器	"		
	医学部基礎研究棟新営		9	10		近世陶器	"		
昭和61年	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		年報Ⅵ
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			"		
	医学部附属病院 木造屋根整備(桟木移植)		12	40			"		
昭和61年	医学部附属病院 外来診療棟新営		13	5			"		年報Ⅶ
	医学部附属病院 外来診療棟周辺 整理整備等(活木樹埋設)		14	18			"		
	医学部附属病院東側車庫改修		15	6			"		
昭和62年	医学部附属病院病棟新営		16	104		削器、ナイフ形石器、細石刃核	試掘		年報Ⅷ
昭和63年	医学部附属病院病棟新営		17	300		二次加工のある削片、使用痕のある削片、剥片、礫石、鐵、原石、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器	立会		年報Ⅸ
	医学部附属病院運動場整備		18	220			"		
	医学部附属病院MRI棟新営		19	45		削器、細石刃、二次加工のある削片、剥片、石核	試掘		
平成元年	医学部臨床実験施設新営電気工事		21	0.5			立会		年報X
平成3年	施却棟地盤調査		22				"		年報X I
平成5年	医学部臨床実験施設新営その他 (洗却棟新営)		23	9			"		年報X II
平成6年	MRI-CT装置新営		24	6			"		年報X III
平成7年	医学部附属病院		25	300			"		年報X IV
平成8年	看護婦宿舎新営		26	40			試掘		
平成8年	医療技術短期大学部 屋外排水管布設		27	6			立会		年報X V
平成9年	医学部歯茎科・納骨堂新営		28	15.2			試掘		年報X VI
	基幹環境整備 (看護棟汚水処理化槽撤去)		29	4			立会		
	医学部附接棟移設		30	10			"		
平成10年	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)		31	134	包含層、近世～近代用水路	削片、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事前	宇部市教育委員会と共同調査	
平成10年	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線・医学部 敷地西側特殊道路)		32	379	包含層、近世～近代溝	削片、圓文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	"	宇部市教育委員会と共同調査	
平成11年	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)		33	792	近世～古代用水路、土坑	陶器、磁器、鐵製品	"	宇部市教育委員会と共同調査	
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新営		34	229	包含層	圓文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器 鉄釘	試掘		年報XXI
平成14年	医学部附属病院高ニモルギー 棟新営		35	13.25			"		
平成15年	総合研究棟新営		36	382	包含層	圓文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶器、磁器	"		
平成15年	基幹環境整備(通突)新営		37	76			試掘		年報1

## 山口大学構内の主な調査

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成16年	医学部基幹環境整備 (地下オイルタンク他)		38	144		縄文土器、土師器、陶器、磁器、石錐	試掘		年報2
	医学部職員宿舎他公私下水接続		39	400		弥生土器、土師器、瓦質土器、陶器、磁器	#		
	医学部総合研究棟北側 連絡用渡り廊下取設		40	40.6			立会		
平成17年	医学部附属病院基幹環境整備 (冷熱源設備他改修)		41	37			#		年報3
	医学部総合研究棟通用門廊取設		42	30			#		
平成18年	モニュメント設置		43	6.2			#		年報4
平成19年	医学部総合研究棟改修Ⅰ期		44	6.75			予備		年報5
平成20年	医学部総合研究棟改修Ⅱ期		45	9			#		年報6
平成21年	小串宿舎B棟埋設ガス管改修		46	58			立会		年報7
平成22年	医学部附属病院患者用 ・職員用立体駐車場建設		47	125		埋管、陶器、磁器、瓦質土器、土師器	予備 立会		年報8
	地域医療教育研修センター新宮		48	156	駐畔、溝	磁器、陶器、泥モノ、土人形、埋管、土錐、土師器、須恵器、弥生土器、縄文土器	予備		
平成23年	地域医療教育研修センター新宮工事		49	4			立会		年報9

## 常盤構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積(m <sup>2</sup> )	道構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	工学部校舎新設		1	70		須恵器	試掘		年報Ⅲ
昭和59年	工学部図書館増築		2	70			n		
昭和60年	工学部尾山宿舎排水管布設			20			立会		年報Ⅳ
昭和60年	工学部尾山宿舎排水管取設等			65			n		年報V
昭和60年	工学部受水槽改修		3	1.5			n		
	工学部尾山宿舎排水管改修			6			n		
昭和61年	工学部身体障害者用スロープ取設		4	29			n		年報VI
昭和61年	精算処理センター(常盤センター) 空調設備取設		5	30			n		
昭和63年	工学部後却炉上屋新設		6	225			n		年報VII
平成元年	工学部夜間照明装置 及び羽球ネット設置		7	2			n		年報IX
平成2年	工学部記念植樹		8	2.5			n		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			n		年報X
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			n		年報XI
	工学部プレハブ研究・実験棟新設		11	6			試掘		
平成4年	工学部・工業短期大学部の 改組再編・博士課程設置に伴う 建物等の新設		12	40			n		年報XII
	工学部および工業短期大学部 職員宿舎取設		13	9			立会		
	大学祭展示物設置		14	7			n		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新設		15	12			試掘		年報XIII
	工学部地域共同研究開発 センター新設		16	16			n		
平成7年	工学部国際交流会館新設		17	8		石器	n		
平成8年	工学部国際交流会館新設		18	352	段状構造	ナイフ形石器、銅片	事前		年報XIV
平成12年	工学部福利厚生棟新設		19	38.5			試掘		
平成13年	工学部インキュベーション センター新設		20	60		土師質土器、瓦	n		年報XXI
平成14年	総合研究棟新設		21	13.5			n		
平成15年	工学部本館改修		22	428			立会		年報I
	工学部定歪速度応力顕微割れ		23	20			試掘		
平成16年	工学部先半導体素子実験室新設		24	52.5			n		年報2
	工学部雨水幹線工事		25	9			立会		
平成17年	工学部職員宿舎揚水施設改修		26	65			n		年報3
	工学部会議棟身障者スロープ取設置		27	38			n		
平成18年	総合研究棟改修工事 (Ⅱ期・本館北)		28	290			確認		年報4
平成19年	工学部総合研究棟改修(Ⅲ期・本館)		29	147			n		年報5
平成20年	工学部女子学生宿舎新設その他		30	24			予備		年報6
平成21年	工学部ガス管改修		31	12.5			確認		年報7

## 光構内

調査年度	調査名	構内地区割	地点	面積(m <sup>2</sup> )	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属光小学校 自転車置場設置		1	6	近世～近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試掘		年報Ⅳ
昭和59年	教育学部附属光小・中学校 施設改修新設		2				立会		年報Ⅴ
昭和60年	教育学部附属光中学校 外灯改修		3	1		土師器	#		年報Ⅵ
昭和61年	教育学部附属光小学校創立 記念事業(フロンズ像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	#		年報Ⅶ
昭和62年	教育学部附属光中学校 グラウンド防球ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、 瓦質土器、 土師質土器、瓦	#	御手洗清採集	年報Ⅷ
昭和63年	教育学部附属光小学校 遊具移設		6	10		土師器、土師質土器、 陶磁器	#		年報Ⅸ
	教育学部附属光小学校 屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、 須恵器、瓦器、 瓦質土器、陶磁器、 土鍋	#	御手洗清採集	
平成2年	教育学部附属光小学校 運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 施錆陶器、磁器、 土鍋、剥片、範溝	試掘	御手洗清採集 遺物含む	年報X
	教育学部附属光小学校 運動場改修		9	23	土壤	土師器、須恵器、 須恵器模倣土器	事前		
平成3年	教育学部附属光中学校 武道館新設		10	38	土壤、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試掘		年報X 1
	教育学部附属光小学校 屋外施設設置		11	18		土師器、石鍋	立会		
平成4年	教育学部附属光中学校 バックス・小屋新設		12	0.5		土師器	#		年報X 1
	教育学部附属光中学校 武道館新設		13	500	土壤、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		
平成5年	教育学部附属光中学校 武道館新設その他の 施設		14				立会		年報X III
	教育学部附属光中学校 武道館新設その他の 施設		15	6			#		
平成6年	教育学部附属光小・中学校 「ゴール新賞給排水管理設		16	19			#		年報X IV
	教育学部附属光小・中学校 運動場新設		17	7		陶磁器	#		
平成10年	教育学部附属光小学校 給食室改修		18	6			#		年報X VI
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	132	古墳包含層、柱穴、 近世～近代土壤	土師器、須恵器、 韓式系土器、壺形土器、陶器、磁器	試掘 立会		
平成12年	教育学部附属光小・中学校 護岸石積改修		20		石垣	陶磁器	立会		年報X VII
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		21				#		
平成15年	教育学部附属光小学校エレベータ 昇降路等新設		22	169	ピット、土壤、溝	縄文土器、土師器、 須恵器、瓦質土器、 陶器、磁器、石器	試掘 立会		年報1
	教育学部附属光小学校 体育器具庫新設		23	53		土師器、須恵器 磁器	予備		
平成17年	教育学部附属光小・中学校護岸改修		24	40	石垣	陶磁器	立会		年報3
	教育学部附属光中学校校舎改修工事 に伴うプレハブ建設		25	107	ピット、土壤	須恵器	本		
平成22年	教育学部附属光中学校 防球ネット設備		26	225			立会		年報7
	教育学部附属光小学校 下水道接続工事		27	1			立会		
平成23年	教育学部附属光小学校 下水道接続工事		28	19.4		土師器、須恵器、陶磁器	予備		年報9
	教育各部附属光小学校道具設置工事		29	20			立会		
平成24年	教育学部附属光学校下水 接続工事		30	125.4	ピット、土壤、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塙土器	本		年報10
	教育学部附属光学校下水 接続工事		31	889	ピット、土壤、溝、 落ち込み、包含層	縄文土器、弥生土器 土師器、須恵器 韓式系土器、製塙土器	立会		

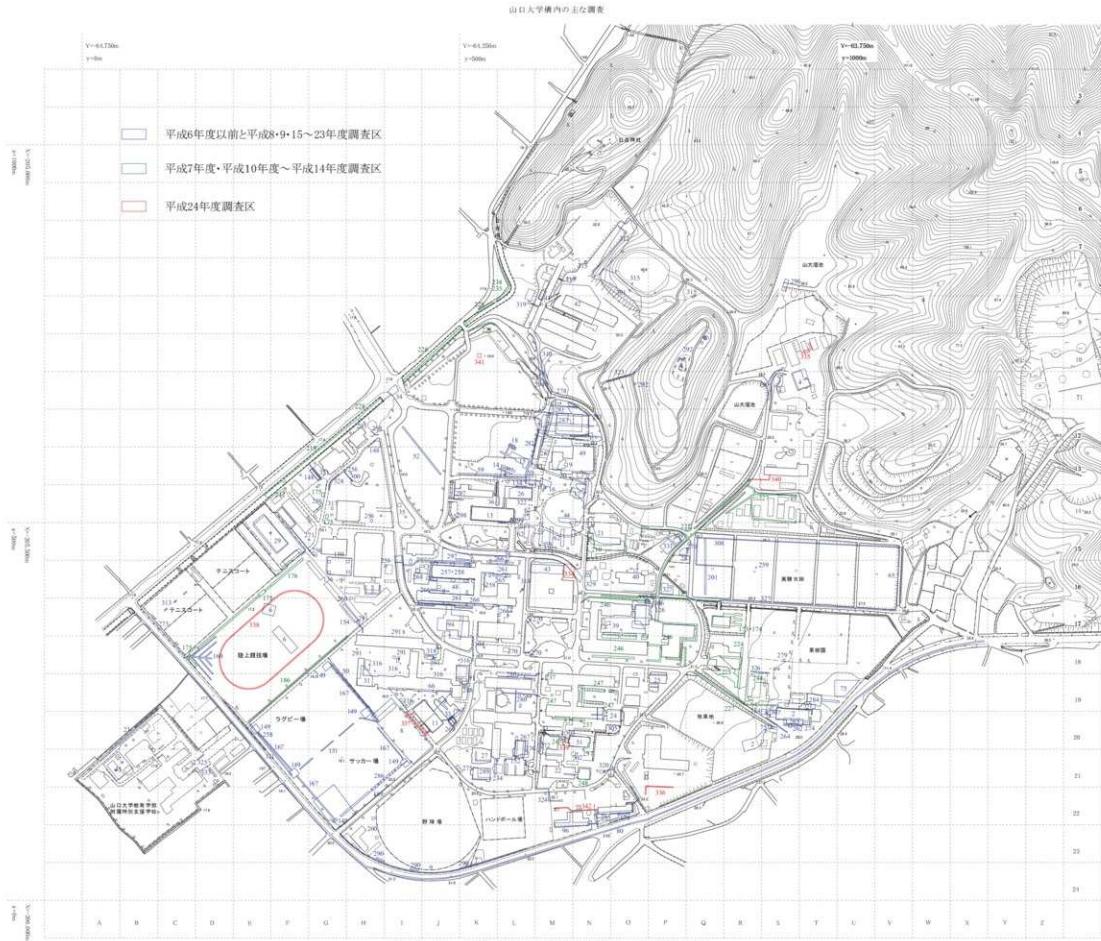


図111 山口大学吉田構内地区割および主な調査区位置図

山口大学構内の主要な調査区

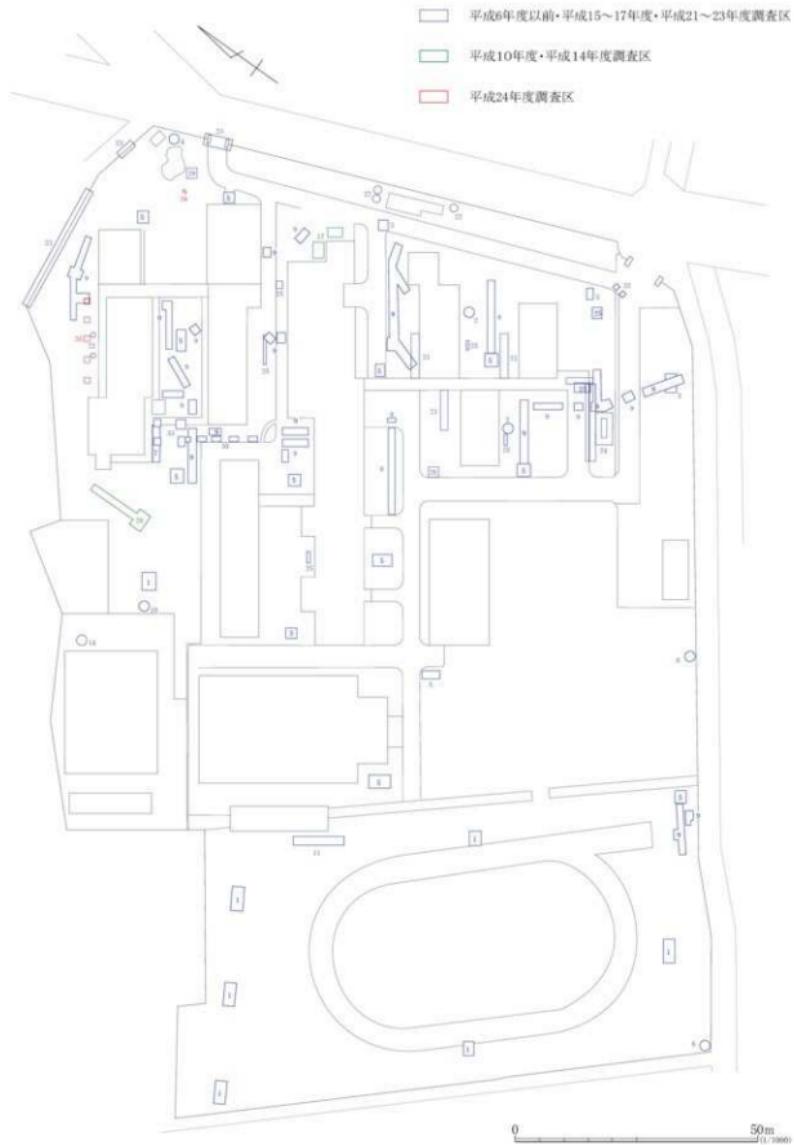


図 112 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図

山口大学構内の主な調査

□ 平成6年度以前の調査区・平成19年度・平成21年度調査区

平成7年度・12年度・14年度調査区

平成24年度調査区

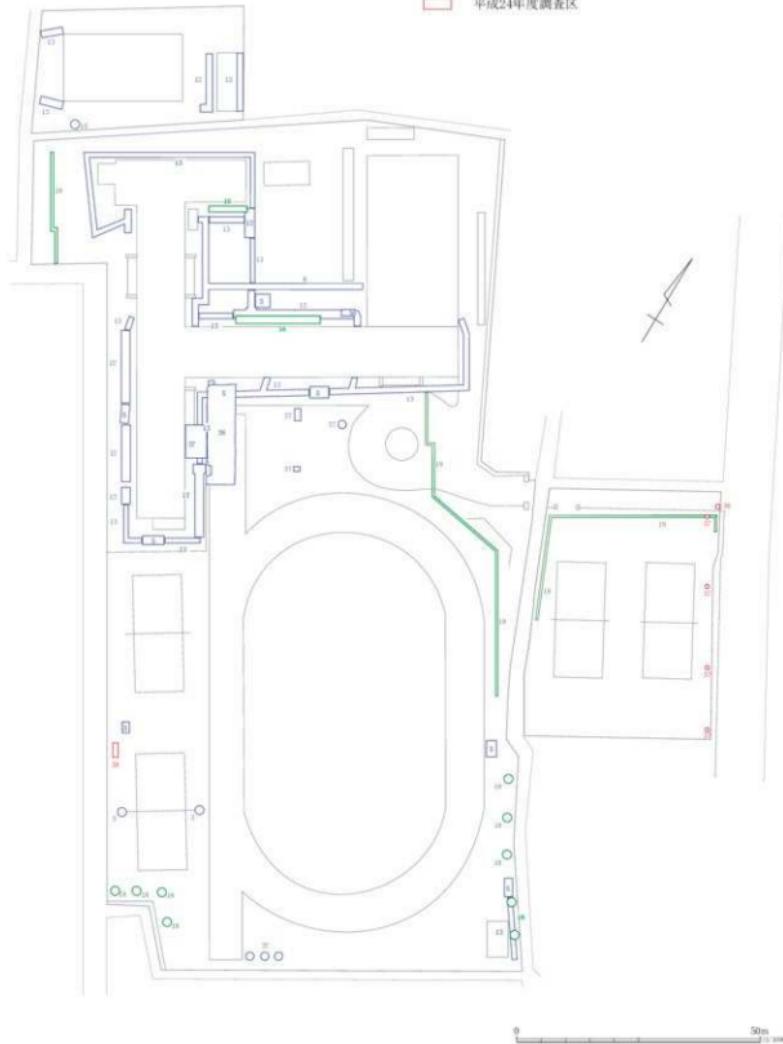


図113 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図

山口大学構内の主要な調査

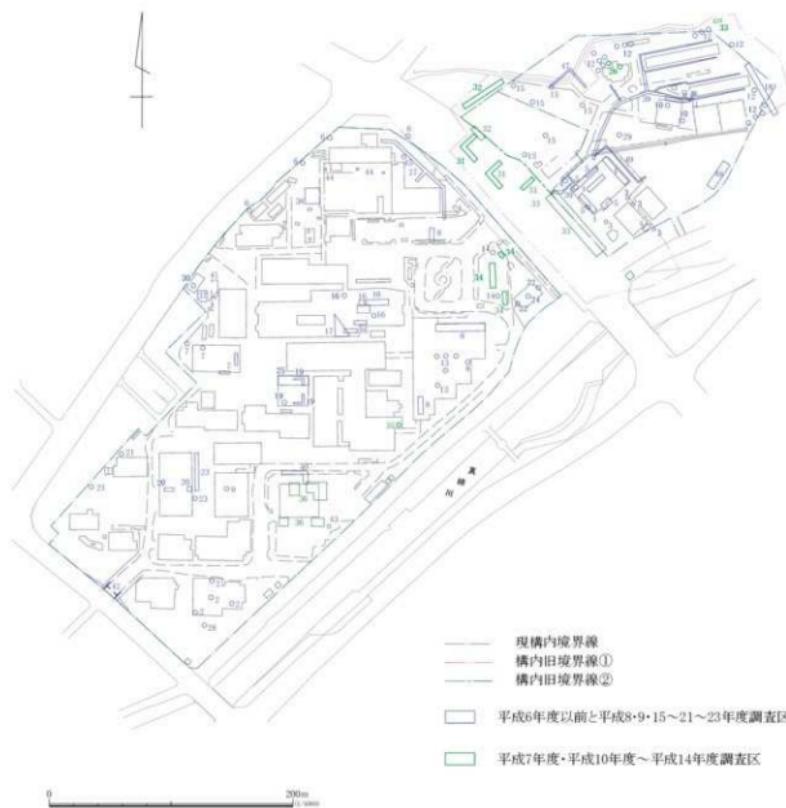


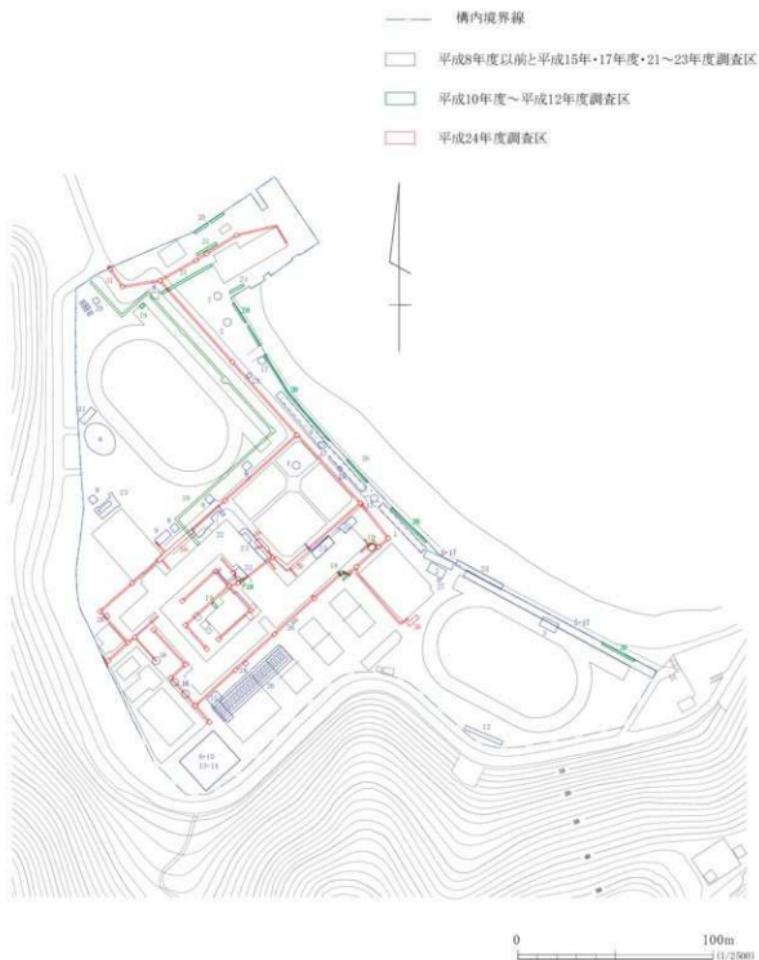
図114 山口大学小串構内調査区位置図

山口大学構内の主要な調査



図115 山口大学常盤構内調査区位置図

山口大学構内の主要な調査区



## 第2章 平成24年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和53年(1978)設置以降、山口大学構内が所在する遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかる教育活動を行っている。具体的には、展示・情報公開活動として、当館展示室において年度内に3回前後の企画展示を行うこと、各種メディアを用いて遺跡及び収蔵資料の情報を公開すること、教育活動としては年度内に1回の市民対象公開授業を開催すること、そして出張展示やワークショップの開催、講演会等への講師派遣など、学内外の要望に応じた地域連携・生涯学習支援活動を実施することである。

平成24年度は、展示・情報公開活動として、第33、34回となる企画展を開催した。また、平成22年度に実施した山口県大学博物館連携事業を発展解消させ、平成23年度より新たに開始した山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携事業を継続実施した。その他、当該年度より本学委員会である山口大学所蔵学術資産継承検討委員会の事業成果展「宝山の一角」共催館として、展示室の提供と展示構築・広報支援などを行った。情報公開としては、引き続き見島ジーコンボ古墳群の出土資料再調査を実施し、調査報告書を刊行した。社会教育活動に関しては、例年通り農学部附属農場との共催により、第12回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう7－』を開催した。

当年度は、本発掘および予備発掘が必要な工事計画が多かったため、埋蔵文化財保護業務が多くなり、9月から翌年1月まで展示室を閉鎖せざるを得なかった。そのため、総入館者数は1,072人と4年連続千名の大台は超えたものの、前年度と比べると約28%の減少を見た(表6・7)。博物館施設として長期の休館は避けたいところであったが、本学における当館の基幹業務を考慮した上での苦渋の決断であった。次頁より平成24年度に実施した展示・情報公開活動、社会教育活動の概要を報告する。

表23 埋蔵文化財資料館利用者の推移

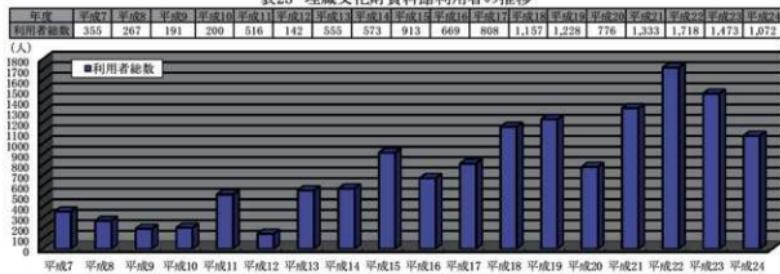
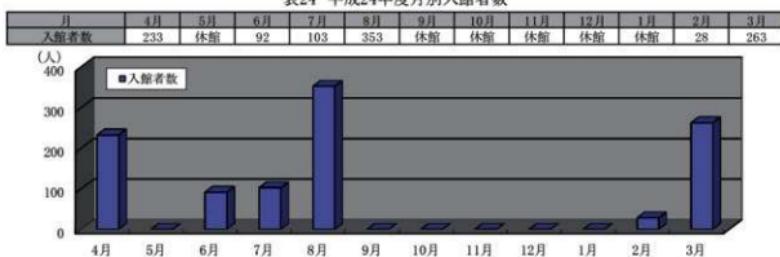


表24 平成24年度月別入館者数



## 第1節 資料館における展示・情報公開活動

### 1. 第33回企画展『遺跡調査に見る山口大学の原風景1 中世 村落 誕生』を開催

山口大学吉田構内が所在する吉田遺跡は、旧石器時代から江戸時代までの埋蔵文化財を包蔵する複合遺跡として著名であるが、既往の調査により各時代の遺構・遺物の分布に疎密があることが明らかとなっている。

判明している事実と問題の一つに、遺物は豊富に発見されるものの鎌倉時代の集落が確認できること、そして後続する室町時代の集落は遺跡の複数地点で検出されるものの、集落範囲が不明確であることが挙げられる。

平成20年度に実施した吉田遺跡での発掘調査において、新たに室町時代の集落跡が2地点で確認されたことを受け、平成24年度の企画展では、吉田遺跡において中世集落が何時、どのような範囲に成立するのかを考察する展示を開催することとした。展示では、これまでに室町時代から江戸時代の遺構・遺物が確認されたキャンバス4地点（大学会館敷地から大学就職支援施設（O-HARA）敷地、山口大学動物医療センター北側地点、メディア基盤センター棟敷地、第2体育館敷地）から出土した実物資料を公開するとともに、江戸時代中期に描かれた古絵図『地下上申絵図 吉田村清図』（山口県文書館所蔵）に描かれている村落と、遺跡において発見された集落域との比較展示を行った。特に遺跡調査から復元される室町時代の集落城地図と江戸時代の絵図、本学統合移転前（昭和40年頃）の吉田地区航空写真、現在（平成24年）の吉田地区航空写真の比較は観覧者には好評であり、およそ400年間、ほぼ景観を変えずにいた吉田の地が、本学の移転とともに急変貌を遂げることに興味を示していた。

5月28日（月）～8月31日（金）の会期中、548名の来館者を迎えることができた。「山口大学の原風景」は、今後も継続的に時代を週りながらシリーズ化していく予定である。

#### 【註】

1) 田畠直彦（2012）「新教育研究棟新宮に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報6～平成20年度～』、山口

横山成己（2012）「農学部附属動物医療センター改修Ⅲ期工事に伴う本発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館（編）『山口大学埋蔵文化財資料館年報6～平成20年度～』、山口



写真 240 第33回企画展ポスター



写真 241 展示の模様

## 2. 第34回企画展『学生発！行動展示 遺物と向き合う』を開催

第33回企画展終了後の平成24年9月以降、埋蔵文化財資料館は学内埋蔵文化財保護業務が多忙となつたため、予定していた展示活動を実施できないまま5ヶ月間休館することとなった。本学学生および教職員、そして地域の皆さんにご迷惑をかけたことをお詫びしたい。

屋外での発掘調査と残務処理を終えた平成25年1月に、3月初旬開催予定の展示までの間の展示室の活用として、近年心に温めていた短期間型の展示に挑む事にした。その展示テーマは「行動展示」である。旭川市旭山動物園の取り組み以降、マスメディア等により取り上げられることが多くなった展示方法であるが、生物系や自然科学系の博物館施設でこそ可能な手法であり、歴史民俗系の博物館とは縁遠いものと感じていた。その一方で、近年は博物館の作業室やバックヤードを部分的に可視化する動向もあることから、当館でも取り組む価値はあると考えていた。

考古学は、実物資料に直接的に接して情報を読み取る学問である。通常はその実物資料と獲得した情報を用いて展示を行うが、今回の企画展では、本学において考古学を学んでいる学生が、研究素材となる遺跡出土資料を前に、どのような行動をとっているのかを公開すると同時に、その行動内容のパネル解説を行うことにした。

展示には、人文学部考古学研究室3年生の男女7名にボランティアスタッフとして協力いただくことになった。ただし、後期授業および後期試験終了後に開催せざるをえず、長期間の展示も学生の負担となるため、会期は企画展として過去最短の2週間、平成25年2月12日(火)～2月22日(金)までの開催とした。会期中約30名の方々に入館いただいたが、遺跡出土資料に対し熱心に向き合う若者を熱心に観察する姿が見られた。短期間の展示だったが、意義のある取り組みであった。当館では、過去にマネキンや手の模型などを用いて、現地での発掘調査から発掘調査報告書刊行までの一連の埋蔵文化財調査を紹介する展示を開催した事があるが、やはり実物(今回の場合「人間」)が持つ情報量の多さにはかなわない、を感じた次第である。

### 【註】

- 1) 第25回企画展『ロマン発見～考古学者の録～』(平成20年4月1日～6月20日)、第26回企画展『ロマン発見～考古学者の筆～』(平成20年7月14日～10月10日)



写真 242 第34回企画展ポスター



写真 243 展示の模様

### 3. 山口県大学ML連携企画巡回展『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』

#### 梅光学院大学会場・徳山大学会場・山口福祉文化大学会場を巡回

昨年度刊行した『山口大学埋蔵文化財資料館年報9～平成23年度～』では、山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携企画巡回展『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』山口大学会場の模様を報告した。この企画巡回展は、平成23年(2011)3月11日に東日本を襲った大震災の復興支援として計画されたものである。震災後1年となる平成24年3月11日より山口大学会場を皮切りに、その後山口県西部、東部、北部を以下のスケジュールで巡回した。

#### 巡回スケジュール

・山口大学会場	平成24年(2012)3月11日(日)～4月27日(金)
・梅光学院大学会場	平成24年(2012)年5月11日(金)～6月26日(火)
・徳山大学会場	平成24年(2012)年7月2日(月)～8月10日(金)
・山口福祉文化大学会場	平成24年(2012)年10月1日(月)～11月9日(金)

山口県初の大学所蔵学術資料巡回展となった当事業であるが、主催である当館と本学図書館、梅光学院大学博物館・図書館、そして展示協力いただいた梅光学院大学東北ボランティア実行委員会諸氏が一致団結し、会場を提供いただいた徳山大学、山口福祉文化大学の方々の多大なる支援を受けながら、無事巡回を終えることができた。関係の皆さまに感謝を申し上げたい。

各会場とも多数の観覧者を迎えることができ、設置したメッセージ布には被災者・被災地への声が溢れた。また、会場にて募った被災地への義援金は、4会場を通じて103,083円に達した。この義援金は、当初の計画通り「公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財團く東日本大震災被災文化財の救援と復旧のため♪」宛に送金させていただいた。会場に足を運んでいただいた皆さま、義援金とともにメッセージを寄せていただいた皆さまにお礼申し上げる。

各会場では1～2回ミュージアムトーク(展示解説)を開催したが、こちらも多くの参加者に恵まれた。各会場とも展示解説後には様々な質問が飛び交い、熱気を帯びた会となつた。

巡回展示終了後、山口県ML連携事業の活動を広く世に周知させるため、梅光学院大学図書館・山口大学図書館の尽力により、平成24年11月20日から22日にかけて神奈川県パシフィコ横浜にて開催された「第14回図書館総合展」のポスターセッションに参加できたことも大きな成果と言える。

最後に、震災後2年が目前に迫った2月19日から2月21日にかけての3日間、被災地にて成果報告展を含む活動を実施した。初日は東北学院大学災害ボランティアステーションを訪ね、事業報告会と成果展示、メッセージ布等の贈呈を行い、2日目は博物館と図書館チームに分かれ、被災地の大学博物館・図書館を訪問した。当館スタッフは、東北学院大学博物館にて災害時の博物館の状況や以降の対応、津波災害に対する博物館施設の備えなど伺い、東北福祉大学芹沢鉢介美術工芸館にて震災後の博物館の被害や対応措置、さらには宮城県・仙台市における大学博物館の連携状況など、貴重な話を伺うことができた。3日目は、今回の連携事業を「自然とともに」というテーマで実施していることから、被災地の環境の復興状況を知るため、仙台市荒浜地区南長沼周辺を訪問した。訪問地の田畠には新たな土が入れられるなど、復興の息吹を感じられたが、復興の道のりの長さを感じさせられた。

およそ1年をかけて実施した今回の山口県ML連携事業であるが、被災地から遠く離れた本州最西端に暮らす我々は、風化させない記憶への第1歩を踏み出したに過ぎない。また山口県大学ML連携事業も、小さな1歩を踏み出したばかりである。今後は、大学の知の拠点とも言える博物館と図書館の存在意義を問い合わせながら、活動を展開させて行きたいと考えている。



写真 244 梅光学院大学会場展示解説（山大理石文）風景



写真 245 梅光学院大学会場展示解説（山大図書）風景

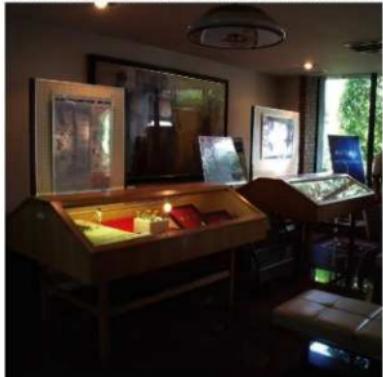


写真 246 徳山大学会場設営風景



写真 247 徳山大学会場展示解説（山大図書）風景



写真 248 山口福祉文化大学会場展示見学風景



写真 249 山口福祉文化大学会場展示解説（山大埋文）風景

#### 4. 平成24年度山口大学所蔵学術資産継承事業成果展「宝山の一角」を共催にて開催

本学には、所蔵される貴重学術資料の保存・修復・整理事業を実施するため全学委員会として「山口大学所蔵学術資産継承検討委員会(以下「委員会」と記す)」が組織されている。委員会は平成23年(2011)に大学会館にて学内向けの事業報告会を開催しており、成果展示の開催によりさらなる事業の可視化を目指すことであったが、本学には大学博物館が設置されておらず、当館以外に適当な開催施設も存在しないこと、さらには委員会の担当部局が当館が所属する大学情報機構であること、筆者が委員会に設置されている「博物・標本専門部会」の部会長に就任していることなど様々な理由から、当館の共催にて成果展示「宝山の一角」を開催することとなった。

展示は前期(平成25年3月2日～4月25日)、後期(平成25年5月7日～6月28日)の2部構成となっており、前期は当館所蔵の考古資料「見島ジーコンボ古墳群 第151号墳出土遺物」、理学部所蔵の鉱物・岩石資料「喜和田鉱山のタングステン鉱」など、教育学部所蔵の美術資料「西山陽平作品」、図書館所蔵の文書「忠正公論將士刷物序・山縣有朋」ほかと典籍「源氏物語」43巻43帖が、後期は当館所蔵の考古資料「見島ジーコンボ古墳群 第154号墳出土遺物」、工学部所蔵の鉱物資料「珪孔雀石」など、教育学部所蔵の美術資料「関根伸夫作品」、図書館所蔵の文書「山田顕義宛井上毅書簡」ほかと典籍「水路路程」8巻6冊が、通期で農学部所蔵の民俗資料「とえ馬」などが展出された。

通常考古資料のみを展示している当館であるが、平成20年度以降は学内連携企画展と称して、他部局所蔵の学術資料展や文字資料とモノ資料との連携企画を実施してきた。今回は同時に多分野の貴重資料が集結する事もあり、展示室の管理には細心の注意を払った。

前期展が山口商工会議所主催の「山口お宝展」への参加も兼ねていたこともあり、前後期を通じて来館者に恵まれ、最終的には入館者数は1,047名に達した。この委員会事業成果展「宝山の一角」は、現在(平成27年度)まで継続して共催開催しており、本学の名物企画となりつつある。当館としても他分野の資料と身近に接することで様々な刺激を受けているが、本来的にはこの様な企画はう少し設備の整った環境で開催すべきと考える。卑下するわけではないが、当館の展示室は約35m<sup>2</sup>と極めて狭小であり、展示ケースも限られ、免震機能等も万全ではない。各部局の学術資料も保管場所が限られ、多くの資料が適切な環境下で管理できていないと聞く。本学も大学博物館等の設置を検討すべきと考える。



写真 250 前期展展示解説の模様



写真 251 後期展展示解説の模様

## 5. 平成24年度刊行物

### 1.『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』を刊行

平成24年度は、平成21年度に実施した構内遺跡発掘調査概報と資料館活動報告を所収した年報を刊行した。発掘調査関係としては本発掘調査1件(光)、予備発掘調査4件(吉田)、工事立会29件(吉田23・白石3・小串1・光2)の成果が掲載されている。平成21年度は第1期中期計画の最終年ということもあってか、開発工事が多発した。本来なら発掘調査にて対応すべき事案も多かつたが、発掘調査同等の精度で工事立会を実施することで対応した。

館の活動報告としては、展示・公開活動として7件の企画展示等事業と、2件の社会教育活動を報告している。その他、館員横山による「下松市御屋敷山古墳出土の出土遺物」と題する館蔵品調査報告書を付篇として所収している。

### 2. 館蔵資料調査研究報告書3『見島ジーコンボ古墳群 第152・153・155・156号墳出土資料調査報告』を刊行

平成22年度に開始した事業であるが、引き続き、見島ジーコンボ古墳群の出土資料調査及び報告書を刊行した。

平成24年度は、当館の所蔵資料は少ないものの、萩博物館収蔵品には銅鏡など貴重な資料が見られる第152・153・155・156号墳を調査の対象とした。萩博物館での資料調査は、平成24年(2011)4月24日～5月18日にかけて館員横山・松浦が実施し、当館所蔵品と合わせ報告書を刊行した。なお、近年第152号墳出土の可能性が極めて高い資料群が埋蔵文化財資料館にて発見されたため、近い将来に再調査および報告をおこなう所存である。その他、第155号墳出土人骨に関し、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸・松下真実両氏に玉稿を賜った。

### 3. 季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信 第22号『てらこや埋文』を刊行

平成18年(2005)より刊行している季刊広報誌である。平成24年度中は埋蔵文化財保護業務が多忙であったため、平成23年度同様「春夏秋冬特大号」と称し、年度末に頁数を倍増して刊行した。巻頭頁には平成24年度の当館の活動概要、2・3頁は文化財保護活動、4・5頁には展示活動、6頁には公開授業の模様、7頁には当館事務補佐員の連載である内業業務紹介を掲載した。また、年度末に刊行した「山口県大学ML連携事業報告」についても、当館が編集・発行をおこなっている。



写真 252 平成 24 年度埋蔵文化財資料館刊行物

## 第2節 資料館における社会貢献活動

### 第12回公開授業『古代人の知恵に挑戦！－古代のお米をつくってみよう－7』を開催はじめに

当館では、平成13年度より、考古学や埋蔵文化財、山口大学構内遺跡の調査研究成果を地域の皆様に身近に感じていただくことを目的として、公開授業を開催している。

第12回となる平成23年度の公開授業は、昨年度に引き続き、日本のお米のルーツとされる赤米をつくり、土器で炊いて食べてみるとするという内容である。今回も埋蔵文化財資料館と山口大学農学部との共催で、吉田構内の山口大学農学部附属農場で延べ3回行い、中学生以下8名、教育学部学生4名、一般12名、合計24名の皆様に参加していただいた。当初予定では、6月16日に田植えを行う予定であったが、雨天のため中止し、農学部附属農場に行っていただいた。今回栽培したのは昨年と同じ「紅吉兆」(糯米)である。

#### 7月28日(土)－稲の観察と除草・土器づくり－

当日は、朝から快晴であった。館長挨拶の後、水田に移動し、農学部付属農場の長砂技術専門職員から、水田に生える雑草についての説明を受け、稲とヒエの違いなどを学習した。その後、除草作業を行ったが、終了直前に豪雨に見舞われたため中止し、実習室にもどり土器づくりに挑戦した。短時間であったが、壺や皿・動物など、参加者各々が古代をイメージした個性的な土器ができた。

#### 10月14日(日)－土器焼成・収穫－

まず、前回作った土器を「覆い焼き」で焼成するため、泥窯づくりに挑戦した。作業は昨年と同様、考古学部との合同で行い、点火した。その後は水田に移動し、収穫を行った。稲は台風にも耐え、最終的に長さ約70～80cmにまで生長した。まず、模造した石庖丁などを使用して穂摘みで収穫した後、残った稲を鎌で根刈りをしてはぜ架けをした。土器については、翌日の午後までに大半を割れることなく焼成することができた。

#### 10月27日(土)－脱穀・糲すり、赤米を食べる－

午前中は箸こぎ、臼と杵による糲すり、てみとザルによる選別と足踏み脱穀機・精米機による作業を体験した。昼食時の赤米の試食にあたっては、今回も土器による炊飯のほか、模造した古墳時代の瓶(こしき)と甕(かめ)、竈(かまど)形土器によって赤米を蒸すことに挑戦した。炊飯には成功したが、火力不足のためか、時間内に赤米を蒸すことができなかつた。このほか、おかずには朴葉焼や、豚汁、あさりのすまし汁をつくったが、これらも美味しく好評であった。

#### 公開授業を終えて

今回の公開授業は農学部附属農場で5回目の開催となった。過去を通じてはじめて田植えを中止したが、以後の3回の授業は無事に終了することができた。稲の生長の模様や雑草の解説、土器づくりなど埋蔵文化財資料館と農学部附属農場の特色を生かした体験メニューを準備し、大学ならではの公開授業を実施することができた。

参加者からは「昔の人の苦労を知り勉強になりました(小学生)」「お米のありがたみがよく分かりました(一般)」などの声が寄せられ、好評であった。

平成24年度も、参加者には米作りの歴史や大変さを実際の体験を通して学んでいただくことができ、公開授業の目的を達成することができたと感じている。館員一同心より御礼申し上げたい。



写真253 館長挨拶(7月28日)



写真254 水田と雑草(7月28日)



写真255 雜草の説明(7月28日)



写真256 除草(7月28日)



写真257 土器づくり(10月14日)



写真258 泥窯づくりI(10月14日)



写真259 泥窯づくり2(10月14日)



写真260 焼成した土器(10月17日)



写真261 稲の収穫(10月14日)



写真262 はぜ架け(10月14日)



写真263 脱穀・糊作り(10月27日)



写真264 火起こし(10月27日)



写真265 土器による炊飯(10月27日)



写真266 朴葉焼(10月27日)



写真267 昼食メニュー(10月27日)



写真268 食事風景(10月27日)

## 付篇1

## 光市東之庄神田遺跡出土の縄文時代石棒

川島 尚宗

## 1. 収藏の経緯

現在山口大学埋蔵文化財資料館に所蔵されている本資料は、かつて山口大学が島田川流域で調査をおこなっていた際に収集されたものである(小野1953、田畠2000、福本1966)。『島田川』(小野1953:103)によれば、光市に所在する神田住宅の土師器が多く出土した地点から東へ数十m離れた桑畑から出土したという。収藏の経緯については詳しく述べられていないが、本資料は地元の方より寄贈を受けたものと判断される。その後、資料的な稀少性から様々な文献でとり上げられてきたものの、本資料について詳細な検討がなされることはなかった。本稿では、本資料の再実測をおこない報告するとともに、周辺地域の類例との比較によって、本資料の系譜および時期について若干の考察を試みる。

## 2. 出土推定地周辺の環境

上述の通り、本資料の出土地点は明確ではないが、神田住宅の東側で出土したという記述から範囲を絞り込むことができる。本資料にともなう土器などの遺物は一切知られていないが、周辺に分布する縄文時代遺跡について概観し、本資料の出土地について検討する。本資料の出土地点は、東之庄神田遺跡の範囲内にあると考えられる(図117)。東之庄神田遺跡は、古墳時代の土師器・須恵器が大量に採集されているが(福本1966)、縄文土器については報告がない。周辺の縄文時代遺跡としては、東之庄神田遺跡の南側に隣接する横橋遺跡が知られている。当遺跡からは縄文時代後期中葉の土器のか、各種石器、植物遺存体などが採集されている(福本1966、河村2001)。石冠の可能性のある磨石のかに祭祀具は出土していないが(山田2008)、横橋遺跡以外に縄文時代を主体とする周辺の遺跡は知られていないため、本資料との関連が予測される遺跡である。

## 3. 出土遺物と山口県内出土石棒

本資料は、全長67.7cm、最大幅4.1cm、最大厚3.4cm、重量1,595gをはかる大型品である(図118-1・写真269・表25)。断面形態はほぼ梢円形を呈し、長軸方向に平坦部を一面有する。文様および把頭は有さない。石材は頁岩と考えられる。一端はやや薄くなり刃状を呈し、他方は断面が真円に近く端部が平坦となる。石棒全体に研磨の跡がみられ、丁寧な調整が施されている。両端に敲打痕が認められる。刃部は明瞭ではないため、後藤分類(1986)のI類に分類されると考えられる。本資



図117 東之庄神田遺跡周辺遺跡分布図

(山口県教育委員会(2002)および国土土地院発行  
基盤地図情報数値標高モデルより作成)

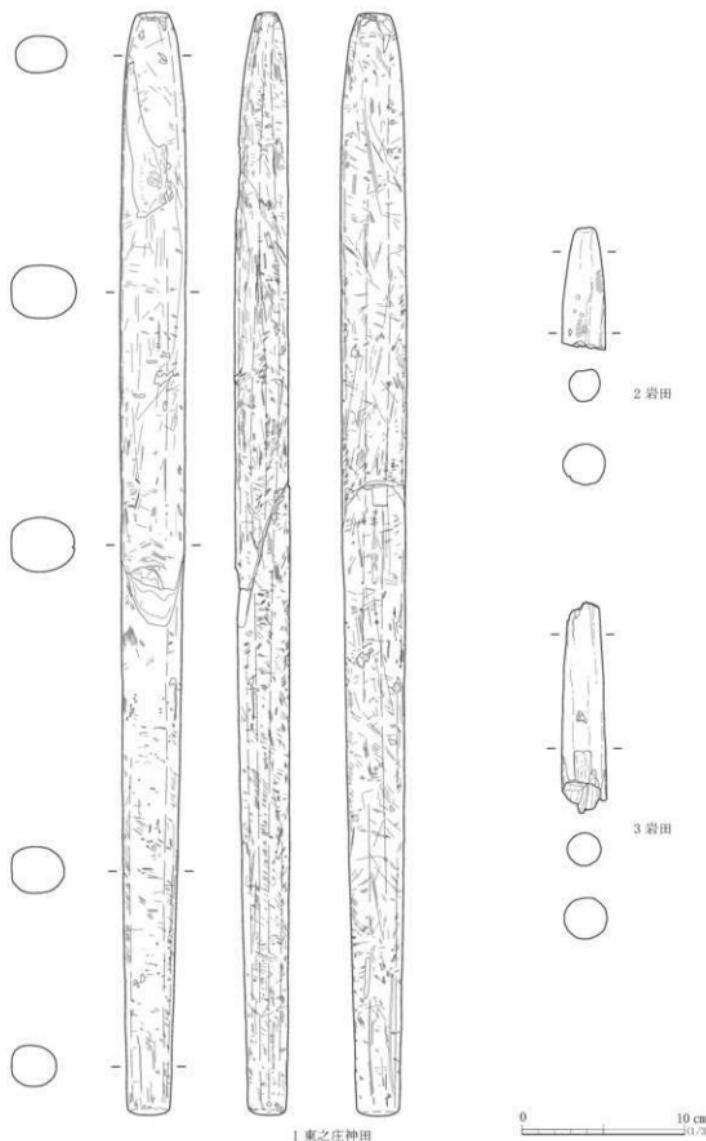


図 118 山口県内出土縄文時代石棒実測図①



写真 269 東之庄神田遺跡出土石棒

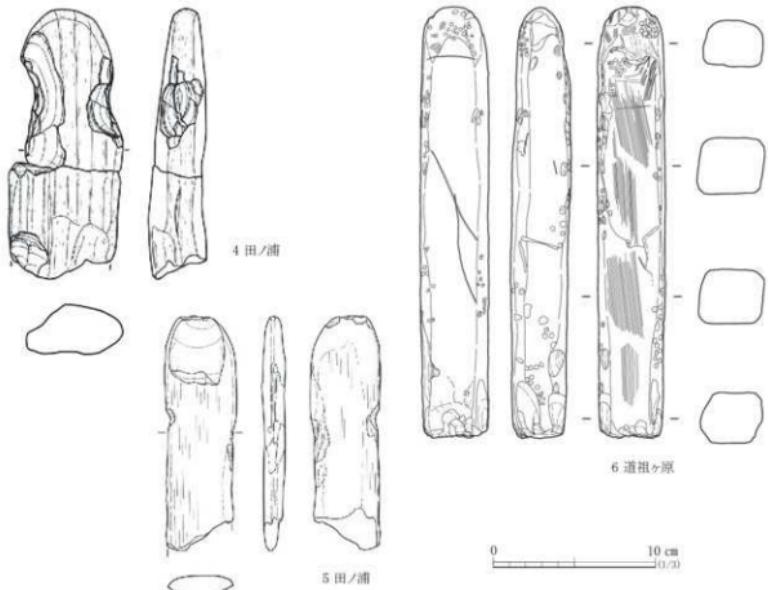


図 119 山口県内出土縄文時代石棒実測図②

4: 石井ほか、2007 第67 図より 5: 谷口ほか、2011 第100 図より

表 25 山口県内出土縄文時代石棒

番号	遺跡名	所在地	サイズ(cm/g)※	石材	備考	文献
1	東之庄神田	光市	全長 67.7 最大幅 4.1 最大厚 3.4 重量 1,595	頁岩か		小野1953、田畠2000、深田2014、福本1966
2	岩田	熊毛郡平生町	全長 (7.5) 最大径 2.1 重量 80.1	結晶片岩	断面円形	松崎寿和ほか1969、深田2014
3	岩田	熊毛郡平生町	全長 (13.0) 最大径 2.7 重量 136.9	緑色片岩	断面円形	松崎寿和ほか1969、深田2014
4	田ノ浦	熊毛郡上関町	全長 (16.6) 最大幅 6.9 最大厚 3.2	泥質片岩	抉り	石井ほか2007、深田2014
5	田ノ浦	熊毛郡上関町	全長 (14.38) 最大幅 4.46 最大厚 1.45 重量 143.9	緑泥片岩	抉り	谷口ほか2011、深田2014
6	道祖ヶ原	萩市	全長 26.4 最大幅 4.18 最大厚 3.42 重量 802	頁岩か	断面方形 東台遺跡から遺跡名変更	松村1985

(※括弧内は残存値)

料は把頭部や把部を有さないことから、後藤分類の中では東正院型石棒(A<sub>1</sub> I類)に形態上最も近いと考えられる(田畠2000)。平坦面を一面有していることから、緩やかながらも刃部を持つととらえるとII Aaに相当すると考えられる。一方の端部がやや尖ることを考え合わせると、広義の石刀に分類することもあり得るだろう。

本資料のような大型の石棒(刀剣型石製品)は中国地方ではほとんど知られていない。まずは近年の調査でわずかながら資料が増加している山口県内の事例をみておこう。図118-2・3は岩田遺跡出土資料である。2は断面がほぼ円形を呈し、先端部が細くなり丸みをもつた状態となる。部分的に研磨痕・敲打痕が認められる。3も同様に断面はほぼ円形を呈し、先端部を欠損するもの2と同様に先端部に向かって細くなる。図119-4・5は田ノ浦遺跡出土資料であり、どちらも欠損している。4の石材は泥質片岩で、全体が荒く研磨されている。やや扁平な断面形態を呈し、明瞭な刃部は作りだされていない。端部は両側からの敲打により抉られており、頭部のような形状を呈している。5は緑色片岩製で、断面形態は薄く扁平となり、石剣状を呈する。端部に敲打痕があり、一部剥離する。4と同様に両側より敲打による抉りが作出される。頭部または把部として認識されていたのであろう。図119-6は旧むつみ村に所在する道祖ヶ原遺跡より出土したとされる資料である(松村1985)。節理に沿って剥離した素材を利用したと考えられ、断面はほぼ方形を呈している。先端部は敲打および研磨によって丸みをもたせてある。全体的に、直線的に仕上げるためと考えられる敲打痕が目立つが、研磨痕が顕著に認められる面もある。基部は敲打により2次調整がなされている。本来は現状よりも長かったものが折損した際に、再加工された可能性もある。

#### 4. 山口県周辺地域の石棒

本資料は、上述のように後藤分類の東正院型石棒との類似性を見いだすことができる(田畠2000)。たしかに形態上東正院型石棒に分類することが妥当であると考えられるが、西日本において東正院型石棒の分布密度が低いことに加え、比較的単純な形態であることから伝播によらない製作の可能性についても検討が必要と考えられる。東正院型石棒は関東地方から近畿地方にかけて主に分布し、太平洋沿岸、中部地方、日本海沿岸まで広く出土している(後藤1986第4図)。時期は、関東～中部地方においては縄文時代後期前葉～中葉にかけてが中心となり、近畿地方などの周辺地域ではやや新しい時期まで存続すると考えられている(前掲:53)。ただし、近畿以西における東正院型石棒の出土例は極めて少ない状況にあり、本資料を除く山口県内出土例は報告されていない。岩田遺跡出土の2点の石棒は、小片ではあるものの、やや尖り気味の先端部を有し断面形がほぼ円形を呈することから、把頭部に文様がないとすれば東正院型石棒である可能性を残す。ただ、最大幅・厚さは東之庄神田遺跡例よりもかなり細い。本資料が東正院型石棒の影響を受けて製作されたのであれば、山口県の地理を考慮すると後期の中でも中葉または後半に属する可能性があろう。この時期は、隣接する横瀬遺跡の時期と符合するので、後期中葉を中心とした時期に用いられた蓋然性は高いと考えられる。

山口県に隣接する地域において、東正院型石棒の特徴となる、把頭部または把頭部の文様が確認できない石棒の分布をみておこう(図120)。ここでは便宜的に径約8cm以上の太形のものは除外し、一般的に細形と認識しうる資料に焦点をあてる。広島県内では、宮脇(1点)、御領(1点)、亀山(1点)、松江(1点)、大川浦遺跡(1点)より出土している。ただ、亀山例・松江例を除くとこれらのほとんどは三谷型石棒と考えられ、東之庄神田例とは時期が異なるものと考えられる。同じく瀬戸内海に面する岡山県では、川入・中撫川(1点)、津島岡大(1点)、彦崎(1点)、久田原遺跡(2点)より出土例がある。

水市東之庄神田遺跡出土の圓文時代石碑

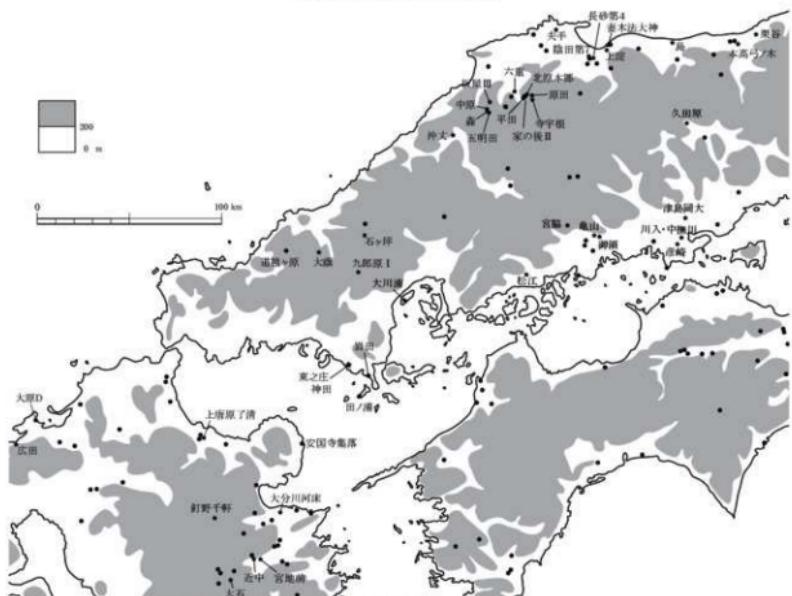


図120 中四国地方・九州北東部における類似資料分布図(小林2000・2001、深田2014を参考に作成)

● 石鈕帶紀昌出土遺跡 ★ 類似石鈕資料出土遺跡

一方、山陰の鳥取県では、栗谷(1点)、島(1点)、妻木法男大神(1点)、上淀(1点)、長砂第4(1点)、陰田第7(1点)、本高弓ノ木遺跡(1点)より文様の施されない石棒が出土している。島根県では、夫手(2)、家ノ後II(3点)、北原本郷(1点)、六重(1点)、原田(15点、うち1点は太め)、寺宇根(1点)、五明田(1点)、森(3点)、中原(1点)、沖丈(1点)、石ヶ坪(1点)、大蔭(1点)、九郎原I(2点)、平田(1点)、板屋III遺跡(1点)より出土例がある。

福岡県においては、下吉田(3)、アミダ(1)、東入部(1)があり、東入部例が東之庄神田遺跡例に類似した形状を示す。大分県では、釣野千軒(1)、宮地前(1)、大石(2)、大分川河床(1)、近中(1)、安国寺集落遺跡(1)出土例が挙げられる。

これらと山口県内の事例を比較してみると、道祖ヶ原遺跡例は断面が方形を呈しており、敲打によって調整されていることから、栗谷例・本高弓ノ木例・長砂第4例、藏小路例にみられるような山陰系の多角柱型石棒の範疇で理解することができるだろう。多角柱型石棒の時期は繩文時代晚期後葉～弥生時代前期とされているため（中村2014・濱田2000）、東之庄神田例とは時期や系統が異なると考えられる。

次に、田ノ浦遺跡例の2点はどうやらも石劍のような扁平な断面形を呈し、頭部に抉りを有することから、東之庄神田遺跡例とは様相が異なっている。岩田遺跡出土例はどちらも断面円形状の石棒であることから、これらも東之庄神田遺跡例とは異なるタイプであると考えられる。本資料は典型的な形態分類に当てはまるものではないが、非常に丁寧な調整がされているため、意図的にカマボコ形の断面形態が作出されたと考えるのが妥当であろう。

表26 九州出土桜ヶ丘型石器(小林編2001を参考に作成)

番号	遺跡名	所在地	時期	サイズ(cm) 重量(g)※	石材	特徴	文献
1	上唐原了清	福岡県 糸島郡上毛町	晩期前半	全長 (33.8) 最大幅7.7 最大厚5.7 重量 (143.9)	凝灰岩	両端欠損 かつをぶし形?	岡本1998 吉村2000 菅波2001
2	広田	福岡県糸島市	後期末	全長 (12.3) 最大幅8.2 最大厚4.7 重量 (311)	凝灰岩質砂 岩	端部に1~3条の 線刻 かつをぶし形?	小池・粉川 1980 岡本1998 菅波2001
3	大原D	福岡県福岡市	後期末~ 晩期前半	全長 (10) 最大幅(4.3) 最大厚(2.2) 重量 (108.4)	凝灰岩質砂 岩	端部破片 3条の線刻	加藤1996 岡本1998 菅波2001
4	釘野千軒	大分県玖珠郡 九重町	—	全長 57.8 最大幅5.8 最大厚4.6	結晶片岩	平坦面を有する 表面採集	坪根・遠部 2001
5	小原下	長崎県島原市	西平~黒川式	全長 (12.4) 最大幅5.6 最大厚7.2	泥板岩		古田1967 遠部2001
6	小原下	長崎県島原市	西平~黒川式	全長 (33.7) 最大幅4.7 最大厚6.1 重量 (1510)	緑色片岩		古田1967 遠部2001
7	桜ヶ丘・ 馬糞塚	熊本県菊池市	—	全長 45.5 最大幅6.2 最大厚4.5	砂岩質	端部に隆帶・線 刻あり	富田1983 東2001
8	立田山周辺	熊本県熊本市	—	全長 (12.2) 最大幅(6.4) 最大厚(5.3) 重量 (276)	溶結凝灰岩	表面採集	東2001
9	上南部	熊本県熊本市	—	全長 (12.2) 最大幅(6.4) 最大厚(5.3) 重量 (276)	砂岩	端部が沈線で区 画される	岡本1998 東2001
10	桑鶴	熊本市貫町字 出口		全長 約45		完形品 図なし	古藤2000 東2001
11	セベット	宮崎県 西臼杵郡 高千穂町	晩期	全長 (13) 最大幅(8.6) 最大厚(8.2)	細粒砂岩	敲打により整形	岡本1998 高千穂土地開 発公社ほか 1984 東2001
12	中岳洞穴	鹿児島県 曾於市	後期後半	全長 (11) 最大幅(6) 最大厚(4.3) 重量 (447)	—		岡本1998 東2001
13	上加世田	鹿児島県 南さつま市	後期後半 (上加世田 式・入佐式)	—	—	表面採集 図なし	東2001

(※括弧内は残存値)

## 5. 九州の石棒—桜ヶ丘型石器を中心に—

山口県内では、本資料のほか5点の石棒が知られているが、いずれも形態、断面形態、石材の面で本資料とは異なっており、さらに中国地方の資料にも酷似する資料は見当たらないようである。製作数自体



図 121 桜ヶ丘型石器分布図 (小林編 2001 より作成)

が少ないと定型的な石棒型式の発展につながらなかったとも推察されるが、本資料の調整が丁寧に仕上げられていることは、製作の際に一定のイメージが存在していたと考えられる。上述の中国地方出土の石棒には、東入部例・釘野千軒例のような類例が散見される。このうち、釘野千軒例は桜ヶ丘型石器（岡本1998・1999、坪根・遠部2001）として分類されている。桜ヶ丘型石器の出土点数は少ないものの、本資料との類似について検討しておくことは重要なと考えられる。

桜ヶ丘型石器は平坦面をもち、三角形または梢円形の一端を切り取ったような断面形が特徴で、溶結凝灰岩や砂岩などの加工の容易な石材で製作され、晩期前半の所産とされている（岡本1998:6）。九州南部では、断面形が隅丸方形に近い形状になる例もある。無文の資料が多いようであるが、端部に沈線などで区画を施す例もある。図121は小林青樹らによる集成をもとにした桜ヶ丘型石器の分布図である（小林編2001）。これによれば、各遺跡からの出土数は1～2点ではあるが、九州全域に分布することがわかる。ただ、広田例のように幅広な資料は、かつをぶし形石器（吉朝2010）または御物石器（小池・粉川1980）に分類されることもあることから、確実に桜ヶ丘型石器と断定することは難しい。むしろ、文様が施されることが少なく、御物石器またはかつをぶし形石器のように幅広ではなく、断面形態が石刀・石劍と異なるカマボコ形のものを桜ヶ丘型石器と分類できるだろう。桜ヶ丘型石器は集中した分布域をもたないものの、九州全域に広く分布していることは注目される。

東之庄神田出土資料は、桜ヶ丘型石器と比較すると細身の部類に入る。しかし、中央部から両端部にかけて細くなる形状は基準資料である桜ヶ丘例や釘野千軒例と共通している。桜ヶ丘型石器の石材は凝灰岩や砂岩が多いようであるが、片岩系の石材も用いられているので、地域的に分布する石材を用いていると考えられる。熊本平野の資料には端部に区画をもつものがあり、宮崎県・鹿児島県域の資料が隅丸方形の断面を呈するという特徴をもつとするならば、九州北半の桜ヶ丘型石器は無文でやや長いという特徴を見いだせる。この点で、東之庄神田例は桜ヶ丘型石器との共通性をもつと判断される。そのため、分布域および形態的な特徴から考えると、東之庄神田例も桜ヶ丘型石器に含まれる可能性は排除できないだろう。そうだとすれば、資料数が少ないものの、分布域を考慮すると、国東半島や九州北東部のような隣接地域との交渉により影響を受けて製作された石棒である可能性が残る。桜ヶ丘型石器はそのほとんどが後期後葉から晩期にかけて製作されたと考えられており、東之庄神田遺跡周辺の状況と照らしあわせても時期的な問題はないと考えられる。一方で、東正院型石棒の分布をみると、東之庄神田例が単純に東日本からの影響を受けて製作されたものとは考えにくい。また、本資料の出土位置は東正院型石棒の西端にあたると考えられるが、東日本からの直接的搬入という問題については、断面に平坦部分を有することから可能性は低いものと考えられる。製作時期は、東正院型石棒の終焉から桜ヶ丘型石器の出現という過渡期に当たる可能性がある。本資料の石材は頁岩と考えられるが、近畿から中・四国地方にかけては片岩系・安山岩の石材が多用され、九州の桜ヶ丘型石器では凝灰岩も加わる。石材はおおまかには地域性を示しており、在地の石材を用いて製作されたと考えられよう。

## 6. 本資料の位置づけ

2000・2001年の石製呪術具の集成以降（小林編2000;2001）、発掘調査にともなって中四国地方での縄文時代石棒は増加しているものの、大幅な変化を示すほどではない。今後資料増加は続くと予想されるが、現時点での本資料の位置づけについてまとめるとしている。本資料は完形の石棒として資料的に貴重なものであるが、表探資料であり寄贈品ということで、出土地点・伴出資料・出土状況などの詳細な情報は得られていない。しかしながら、縄文時代後期以降に石棒の分割や分配が想定される中で（稻田

2008)、完形の石棒が出土していることは用途や機能に地域差・時期差があったものと考えられ、瀬戸内海側でも資料や出土状況の検討が必要であろう。

本資料は、採集地点の近隣に分布する既知の遺跡の中では、横樋遺跡との関連が最も高いと考えられる。製作された時期は縄文時代後期～晩期中葉と考えられ、横樋遺跡にて保有されたものであれば後期の可能性が高くなる。中国・四国地方での類似資料が少ないため現段階での詳しい検討は難しいものの、今回の報告では九州の石棒との比較もおこない、類似資料の抽出を試みた。本資料は、東日本から九州への石棒類の伝播の過程を示す側面と、九州地方で独自に発展した石棒文化の影響を受けた遺物という側面の両者を備えた資料である可能性が考えられる。

#### 【謝辞】

平生町歴史民俗資料館・平生町立平生図書館の皆様には岩田遺跡出土石棒の資料実見・実測をさせていただき、また本報告への掲載許可もいただいた。萩市教育委員会の柏本秋生氏、吉松泰宏氏、梅地崇氏には、道祖ヶ原遺跡出土石棒の資料実見・実測に際して大変お世話になった。深く感謝申し上げます。

以下の諸氏からは有益なご教示を賜った。末筆ではありますが、記して深謝いたします。小南裕一、田畠直彦、中村豊、乗安和二三、横山成己(50音順、敬称略)。永眠された乗安和二三氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

#### 【註】

- 『島田川』(小野1953)第56図6、図版第33図20、『山陰地方の縄文社会』(深田2014)祭祀遺物実測図51-11、など。
- 山口県内では明確な刀部を有する石剣・石刀は出土していないものの、周辺地域からはそれらの出土が認められる。今回の報告資料は明確に石刀とみなし難いため厳密な区分はせず、石剣・石刀を含めた小型石棒類を主にあつかい、それらの総称として石棒と記述する。
- A、刀部(あるいは側縁を走る稜)が一側縁を走るもの、a、稜と反対の側縁が曲線で結ばれるもの(後藤1986:35-36)。A i II Aaiは九州に分布する天附型石刀として示されるが、これは大きく内溝しているため、本資料とは異なった形状を呈する。
- 本資料の断面形態は御物石器に類似するが、本資料は中央部の幅と厚みという形態面から判断して御物石器には相当しないと考えられる。

#### 【引用参考文献】

- 石井龍彦・安村隆博・児玉 勉(2007)『田ノ浦遺跡』山口県埋蔵文化財センター調査報告第59集、山口県埋蔵文化財センター(編)、山口  
稻田陽介(2008)「山陰地方における石棒の基礎的研究」、島根考古学会(編)『島根考古学会誌』第25集、松江  
小野忠熙(1953)『島田川 周防島田川流域の遺跡調査研究報告 1950-1953』、山口大学島田川遺跡学術調査団(編)、山口  
岡本孝之(1998)「桜ヶ丘型石器について」、九州考古学会(編)『九州考古学』第73号、福岡  
岡本孝之(1999)「遺物研究 石冠・石鋸・鰐形石器」、縄文時代文化研究会(編)『縄文時代』第10号、所沢  
遠部 慎(2001)「九州地域(長崎県・佐賀県)の概要と集成」、小林青樹(編)『縄文・弥生移行期の石製呪術具2』考古学資料集  
17、柄木  
加藤良彦1996「3次調査」、福岡市教育委員会(編)『大原D遺跡群1』福岡市埋蔵文化財調査報告 第481集、福岡  
河村吉行(2001)「横樋遺跡」、山口県(編)『山口県史』資料編 考古1、山口

- 小池史哲・粉川昭平(1980)「広田遺跡0区」, 福岡県教育委員会(編)『二丈・浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告』, 福岡  
古藤忠志(2000)「桑鶴遺跡群 第1次調査区」, 熊本市教育委員会(編)『熊本市埋蔵文化財調査年報』第3号, 熊本  
小林青樹(2000)『縄文・弥生移行期の石製呪術具1』考古学資料集12, 小林青樹(編), 佐倉  
小林青樹(2001)『縄文・弥生移行期の石製呪術具2』考古学資料集17, 小林青樹(編), 桜木  
後藤信祐(1986)「縄文時代後晩期の刀劍型石製品の研究(上)」, 考古学研究編集委員会(編)『考古学研究』第33巻第3号,  
岡山  
菅波正人(2001)「九州地域(福岡県)の概要と集成」, 小林青樹(編)『縄文・弥生移行期の石製呪術具2』考古学資料集17, 桜木  
高千穂土地開発公社・高千穂町教育委員会(1984)『セベット遺跡』高千穂町文化財調査報告書第3集, 高千穂土地開発公社・高  
千穂町教育委員会(編), 高千穂  
谷口哲一・後藤義拓・米田浩晃・山本寛子・中原香織(2011)『田ノ浦遺跡II』第74集, 山口県埋蔵文化財センター(編), 山口  
田畠直彦(2000)「中国地域(山口県)の概要」, 小林青樹(編)『縄文・弥生移行期の石製呪術具1』考古学資料集12, 佐倉  
坪根伸也・遠部慎(2001)「九州地域(大分県)の概要と集成」, 小林青樹(編)『縄文・弥生移行期の石製呪術具2』考古学資料  
集17, 桜木  
中村豊(2014)「中四国地域における縄文時代精神文化について—大型石棒・刀劍型石製品を中心にして—」, 柳浦俊一(編)『山  
陰地方の縄文社会』, 松江  
濱田竜彦(2000)「中国地域(鳥取県・島根県)の概要」, 小林青樹(編)『縄文・弥生移行期の石製呪術具1』考古学資料集12,  
佐倉  
東和幸(2001)「九州地域(熊本県・宮崎県・鹿児島県)の概要と集成」, 小林青樹(編)『縄文・弥生移行期の石製呪術具2』  
考古学資料集17, 桜木  
深田浩(2014)「中国地方の縄文時代祭祀遺物集成」, 柳浦俊一(編)『山陰地方の縄文社会』, 松江  
福本幸夫(1966)『先原史時代の光市』, 福本幸夫(編), 光(山口)  
古田正隆(1967)『小原下遺跡報告(第1次発掘調査)一長崎県南高来郡有明町大三東に所在する一』, 長崎県立国見高等学校  
社会科研究クラブ(編), 国見(現雲仙市)  
松崎寿和ほか(1969)『山口県岩田遺跡発掘調査概報』, 岩田遺跡発掘調査団(編), 平生(山口)  
松村通男(1985)『むつみ村史』, むつみ村教育委員会(編), むつみ(現萩市)(山口)  
山口県教育委員会(2002)『山口県文化財地図情報システム』, 山口県教育委員会(編), 山口  
山田康弘(2008)『第3編第3章 縄文人の祈り』, 山口県(編)『山口県史』通史編 原始・古代, 山口  
吉朝則富(2010)『かつをぶし形石器考』, 光記念館(編)『光記念館 研究紀要 自然科学』第6号, 高山  
吉村靖徳(2000)『上唐原了清遺跡II』一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告5, 福岡県教育委員会(編), 福岡

## 報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくまいぞうぶんかざいしりょうかんねんぽう
書名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
副書名	一平成24年度一
巻次	
シリーズ名	山口大学埋蔵文化財資料館年報
シリーズ番号	10
編著者名	田畠直彦 横山成己 川島尚宗 松浦暢昌
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1 Tel083-933-5035
発行年月日	西暦2016年(平成28年)3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 53秒	131度 28分 08秒	20120920- 20121114	172m <sup>2</sup>	図書館改修工事及び環境整備 (図書館周辺道路迂回)工事
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 09分 02秒	131度 28分 20秒	20120702- 20120711	45m <sup>2</sup>	産業動物実験施設新設工事
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 44秒	131度 28分 12秒	20121116- 20121128	48m <sup>2</sup>	権野寮新營工事
吉田遺跡	山口県山口市 吉田1677-1	35203		34度 08分 46秒	131度 28分 01秒	20130204- 20130304	66.1m <sup>2</sup>	第1学生食堂増築工事
御手洗遺跡	山口県光市 室積8丁目4番1号	35210		33度 55分 11秒	131度 58分 12秒	20120521- 20120816	125.4m <sup>2</sup>	光学校 公共下水接続工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田遺跡	集落跡	縄文～中世	河川・杭列	弥生土器・土師器 須恵器・石器・木製品 跨帶丸輪	
吉田遺跡	集落跡				
吉田遺跡	集落跡				
吉田遺跡	集落跡	弥生	河川・ピット	弥生土器	
御手洗遺跡	散布地・集落跡	縄文～古墳	土壤・構・ピット・落ち込み	縄文土器・土師器 須恵器・製塩土器	韓式系土器



山口大学埋蔵文化財資料館年報  
－平成24年度－

平成28年3月31日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 (有)三共印刷

〒759-0204 宇部市大字妻崎開作1953-8



YAMAGUCHI UNIVERSITY  
ARCHAEOLOGICAL MUSEUM REPORT Vol.10

CONTENTS

Chapter I	The project on the Yamaguchi University campus in the 2012 fiscal year	.....	1
Section 1	General outline of the project on the Yamaguchi University campus in the 2012 fiscal year	.....	1
Section 2	Excavation on the Yoshida campus "Yoshida site"	.....	5
Section 3	Excavation on the Shiraishi campus "Shiraishi site"	.....	111
Section 4	Excavation on the Hikari campus "Mitarai site and Tsukimachiyama site"	.....	116
Appendix 1	The gist of researches and studies at Yamaguchi University in the 2012 fiscal year	...	204
Appendix 2	List of researches in Yamaguchi University campus	.....	207
Chapter II	Report of the Yamaguchi University Archaeological Museum activities	.....	230
Section 1	Exhibition activities	.....	231
Section 2	Social education activities	.....	237
Appendix	Jomon stone rod found at Higashinoshōjinden, Hikari, Yamaguchi prefecture	...	240

Published by

Yamaguchi University Archaeological Museum  
Yamaguchi, 2016